

Super
English
Language
High School

3

資料編

『英語で議論できる効果的な発信能力を育成するための
ステップアップ・プログラムの研究開発』

平成18年度（第3年次）
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスク
ール

研究開発実施報告書 広島市立舟入高等学校

【音読】『音読トレーニング』

記録者 - 為西正和
科目名 - 時事英語

ねらい

さまざまな音読トレーニングを通して、読解力はもちろんリスニング力の向上を図る

方法

CDを用いてモデルリーディングを聞かせる。本文は見ない。
内容について理解できたことを発表する。
本文を見ながら再度CDを聞く。
オーバーラッピングをする。
シャドーイングをする。
内容を確認するためにT or Fをする。

留意点

では概要をつかませる。
では各単語の発音等を確認させる。
ではスピードやリズムを意識させる。

用具・プリントなど

テキスト準拠のCD
e-learningを使っての音読トレーニングを、130wpm～160wpm
の範囲で週1回行う。

【音読】『サイト・トランスレーション』

記録者 - 近藤あゆみ
科目名 - 英語

ねらい

SVOCの文型を意識した和文精読の定着をはかる
「読む」から「訳す」へのリンクを意識し、英文を訳出する速度を強化する
センスユニットごとに区切ったプリントを用いることにより、長い英文への抵抗をなくし最終的に英文のリプロダクションを行う

方法

CDを用いてモデルリーディングを聞かせる
センスユニットごとの和文英訳を全体で確認する(抜粋箇所のみ)
プリントを半分に折り、英文のみを見てスピーディに口頭和訳を行う(各自)
ペアでプリントを交換し、一人がサイト・トランスレーションを行う。もう一人は口頭和訳の間違いに下線を引いたりヒントを与えながら、相手の和訳を確認する。(交代して同じ作業を行う)
プリントを半分に折り、日本語のみを見て英文のリプロダクションを行う

留意点

スピーディに行うため、タイム・プレッシャーを与える
ペアでの見直し(方法)のところで、和訳に間違いがないかも一度確認させる
ペアで活動を行った後は、全体で英文のリプロダクションを行う

用具・プリントなど

教科書準拠のCD
サイトラプリント(別紙1)

Lesson 5-2 Asako Lives on

Several hours later
the family was asked
by a transplant **coordinator**,
"Was Asako registered as a donor?"

数時間後に
家族は尋ねられた
臓器移植コーディネータに

The family talked with each other
outside the hospital.
Hiroko, Asako's sister, said,
"Asa-chan registered
as an organ donor
when she got her driver's **license**
here
last autumn.
She told me
on the telephone.
If Asa-chan could open her mouth now,
she would certainly say, 'Yes.' "

病院の外で
朝子の妹の広子は言った
「あさちゃんは登録したの
臓器ドナーとして

ここで
去年の秋に。
彼女は私に言ったの
電話で。

The family then began thinking
of **donating** Asako's organs.

家族は、その時に考え始めた

"We thought back over her life.
She was a very **thoughtful**
and warm person,"
said her mother Yoko.
"This was her nature.
We wanted to **respect** her wish."
The **following** morning
the doctors **operated**.

そして温かい子でした。
と母の容子さんが言いました。
「

お医者さんは手術を行った。

【音読】『フレーズ・リーディング』

記録者 - 川本 由美

科目名 - 英語

ねらい

「英語で考えること」を定着させる

「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の3技能を関連させるための活動を行う
返り読みをせず、文を意味単位で把握し、読解の速度をつける。

方法

CDを用いてモデルリーディングを聞かせる

英文にスラッシュの入ったプリントで音読させる(シャドーイング)

LL機器を用い、ペアを作る。

一人が英文を出し、もう一人が日本語をだす。

フレーズごとに交代で行う。

留意点

わからない単語、フレーズはペアで相談する。

細かいところにこだわらず直読直解をしていく。

時間を取りすぎず、スムーズに活動できるよう心がける。

用具・プリントなど

教科書準拠のCD

スラッシュプリント

【音読】『READING WITH INFORMATION GAPS』

記録者 - 堂鼻香代子

科目名 - 英語

ねらい

内容理解の伴った音読へと導く
復習として要約文を完成させる

方法

テキストの各パート(各課)の音読練習が終わった後で復習として行う
ペアを作り AB 異なる2種類のプリントを配布する
各自30秒間で空所に入る語句を予想しながら要約文を読む
A(B)はB(A)の音読を聞いて自分の要約文を完成する
制限時間内でお互いの要約文が完成するまで何度も音読をする
最後にお互いのプリントをつきあわせて答え合わせをし、二人の合計の正答数を発表する。

留意点

活動中は一切日本語を使わない
活動の制限時間を決め、音読の速度が遅くならないように注意させる
途中(空所)で止まらないで一気に最後まで読ませる
空所が完成するまで制限時間内で何度も音読をする

用具・プリントなど

各パート(各課)の AB2種類の要約文プリント
(A Bはそれぞれ異なる部分が空所になっており、AとBをあわせて要約文が完成するようになっている。)
ストップウォッチ

【音読】『リーディング、レシテーション』

記録者 - 福崎 穰司

科目名 - OC 、総合英語

ねらい

- 音読の成果を定着させる
- 「読むこと」・「話すこと」の技能を関連させるための活動を行う
- 音読から暗誦へと導く
- 暗誦からスピーキングへの橋渡しの手だてをする

方法

- リズムに合わせて教師がモデルリーディングをし、コーラスリーディングさせる
- 教科書の基本例文を音読(バズリーディング)させる
- 音読から暗誦への活動として教師が生徒全体に暗誦しているかどうか確認する(日本語から英語へ)
- 生徒同士で暗誦をチェックさせる

留意点

- 授業前に、集中させる
- 発音・リズム・イントネーション・リエゾンに注意させる
- 音読から暗誦へと自然に展開させる
- 暗誦を意識させず、音読に重点をおくよう、生徒に指示を与える

用具・プリントなど

- 教科書準拠のプリント

【音読】『リズム・リーディング』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - 英語 (1年 国際コース・普通コース)

ねらい

音読を暗誦へと導く

英語の抑揚の isochronal な側面に触れさせる

方法

教科書の例文や本文を音読(コーラス・バズ)させる

小節ごとにスラッシュを入れさせる

リズムを流す

リズムに合わせて教師がモデルリーディングをする

教師は読み始めるきっかけを与え、生徒と一緒に読む

教師は読み始めるきっかけを与え、生徒だけで読ませる

何度か繰り返した後、教科書を閉じさせる

リズムに合わせて暗誦させる

リズムなしで暗誦させる

リスニング・トランスレーション2へと繋げる

留意点

姿勢を正しくさせる

テンポを速くしてリエゾンさせたり、遅くして子音・母音を明確に意識させたりする

暗誦へと導いた後、リスニング・トランスレーションへと繋げる

用具・プリントなど

リズムボックス

【音読】『メトロノーム・リーディング』

記録者 - 栗栖 五代

科目名 - 異文化理解

ねらい

英語特有の強弱のリズム(ウサギのピョンピョンリズム)に慣れる
英語のリズム感を身につける

方法

CDを用いてモデルリーディング(模範読み)を聞かせる
全体でコーラスリーディング(一斉読み)をさせる
個別でバズリーディング(個人読み)をさせる
メトロノームに合わせて、コーラスリーディング(一斉読み)をさせ、徐々にテンポを上げていく
教師によるメトロノームに合わせたモデルリーディング(模範読み)の実演
個別で2、3人の生徒にメトロノームに合わせたリーディングを全体で発表させる

留意点

最初は英文を見ながら、何回か繰り返し、慣れたら英文を見ないで練習させる
名詞及び一般動詞(This, house, Jack, built)にストレスを置き、その他の語(is, that, the, in)は軽く発音する
机を叩いたり、ステップを踏んだりして、拍子をとって口に出し、自ら英語のリズムを作りだすようにする

用具・プリントなど

電子メトロノーム
英語リピーティング入門のCD
ストレスマーク()のついたプリント(Unit 1 のマザ - グース)

Unit 1 英語独特のリズムに慣れる

Listen and fill in the blanks.

(◯ は強く読むところ、 ◡ は弱く読むところ)

This is the (◯ ◡ ◡ ◡ ◡) that Jack
(◡ ◡ ◡ ◡ ◡).

This is the malt

That (◡ ◡ ◡ ◡ ◡) in the house that Jack built.

This is the (◡ ◡ ◡ ◡)

That (◡ ◡ ◡ ◡) the malt

That lay in the house that Jack built.

This is the (◡ ◡ ◡ ◡)

That killed the rat

That ate the malt

That lay in the house that Jack built.

This is the (◡ ◡ ◡ ◡)

That (◡ ◡ ◡ ◡) the cat.

That killed the rat

That ate the malt

【音読】『グラマー・ディクテーション』

記録者 - 佐々木百合子

科目名 - 英語

ねらい

音読の成果を定着させる

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3技能を関連させるための活動を行う

正しく聴いて書き取るためには文法が大切であることに気づかせる

方法

CDを用いてモデルリーディングを聞かせる

センテンスごとにポーズを入れ、ノートに書き取らせる

一度聞き終えたら、見直しをさせる

もう一度、CDを聞いて確認する

教科書を開いて答え合わせをする

留意点

わからない単語、聞き取れなかった単語もできるだけ聞こえた感覚でスペルさせる

見直し(方法)のところで、文法をしっかりとチェックさせる

まず初見で取り組ませることを心がける。必要なら既習の内容をディクテーションさせ、理解が十分であるかを確認させる

用具・プリントなど

教科書準拠のCD

穴あきプリント

【音読】『クローズド・テスト』

記録者 - 佐々木百合子

科目名 - 英語

ねらい

音読の成果を定着させる

「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の3技能を関連させるための活動を行う

前後関係で（ ）内に入るべき語、語句を考えさせ、guessing abilityの向上を図る。

方法

まず内容(話の展開)をしっかり把握させる。

CDをしっかり聞かせ、各語、チャンク毎のまとまりの発音練習を経て自然な流れで文を読む。

留意点

事前に内容(話の展開)をしっかり把握させ、本文のCDを繰り返し聞かせたり、リピートさせたりする。

正しい発音を習得させる。

流暢に読めるように努力させる。

用具・プリントなど

教科書準拠のCD

穴あき・中抜きプリント

【暗誦】『カウント・アップダウン』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - 全科目

ねらい

Warming up として、頭脳を活性化させ、授業への集中力を高める
発声への抵抗をなくし、トレーニング活動への準備状態をつくり出す

方法

全員を起立させる

目標の数(例 30)と時間(例 30秒以内)を告げる

例 Let's count up from 1 to 30 and down from 30 to 0, in 30 seconds.

教師の「スタート!」の合図により、生徒は1～30まで(アップ)、そして30～0まで(ダウン)の数を英語で素早く発音する

「0(zero)」まで数えたらすわる

教師は、一番早かった生徒の終了時間、全員が終わった時点の終了時間を生徒にフィードバックする

留意点

慣れないうちは、とくにカウントダウンが難しい。したがって、ワード・カウンターを持たせて、指で押さえながら、あるいは目で追いながら、カウントさせてもよい

姿勢を正しくさせ、教師あるいはペアとのアイコンタクトに注意させる

正しい発音でカウントしないと意味がない。したがって、ペアで、交互にカウントさせるなど、互いの発音を確認できる工夫も必要

バリエーションとして、「曜日」「月」「方角」「計算」など、基本的な暗記事項の確認にも使える

用具・プリントなど

ワード・カウンター

【暗誦】『映画教材を使用したリスニング・スピーキング』

記録者 - 大鴻淳二

科目名 - 異文化理解

ねらい

ナチュラルなスピードで話されている英語を理解する。
場面に応じた自然な言い回しをできるようにする。

方法

映画教材(DVD)を字幕なしで観て、場面を把握する。
音声を聞き、プリントの空所に適語を入れる。
再度、英語の字幕付きでDVDを観て、答え合わせをする。その際、重要語句や表現の説明を加える。
MOに録音された音声を聞き、リピートイング、シャドーイングをする。
ペアワークをし、暗誦する。
場面の一部の音声を消し、ペアでその場面や状況にふさわしい会話を考える。
発表

留意点

連結音に慣れさせる。
感情込めて発音するようにさせる。

用具・プリントなど

DVD
空所補充プリント

【暗誦】英 日

『リスニング・トランスレーション 2 』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - 英語 (国際コース・普通コース)・リーディング(3年 普通コース)

ねらい

暗誦を通訳へと導くことでリーディングとリスニングの能力を高める

翻訳に時間的な負荷を与えることで言語能力を高める

方法

音読、訳読または訳先渡しを通して教科書の例文や本文に習熟させておく

教師は通訳する部分(と目標時間)を生徒に指示する

ペアを作り、「読み手」と「訳し手」を決める

「読み手」は英文を見ながら、少しずつ音読をして「訳し手」に聞かせる

「訳し手」は「読み手」が読んだ部分までを日本語になおす

「読み手」は、「訳し手」が訳せなかったり間違ったりした場合には、「訳し手」を助けるように繰り返して読んだり、パラフレーズしたりする

一通り終了したら、「読み手」と「訳し手」を交代する

ペアが二人とも終了したら着席する

留意点

事前にスラッシュリーディングをさせておく。慣れてきたらスラッシュなしで、相手が訳しやすいところで止めながら音読をできるよう指導する

ペアの立ち位置、互いの距離、アイコンタクト、訳し手は何も持たないこと、などに気を配る

時間を指定して、緊張感を高める

毎回交代で、何組かのペアにデモンストレーションをさせる

用具・プリントなど

ストップウォッチ

【暗誦】日 英

『リスニング・トランスレーション 2 』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - 英語 (1年 国際コース・普通コース)・リーディング(3年 普通コース)

ねらい

暗誦を通訳へと導くことでスピーキングの基礎力を養成する
翻訳に時間的な負荷を与えることで言語能力を高める

方法

音読、訳読または訳先渡しを通して教科書の例文や本文にかなり習熟させておく

ペアを作り、「読み手」と「訳し手」を決める

「読み手」は英文を見ながら、少しずつ日本語訳をして「訳し手」に聞かせる

「訳し手」は「読み手」が告げた部分までを英語になおす

「読み手」は、「訳し手」が英語になおせなかったり間違ったりした場合には、「訳し手」を助けるように日本語を繰り返して告げたり、パラフレーズしたりする

一通り終了したら、「読み手」と「訳し手」を交代する

ペアが二人とも終了したら着席する

留意点

導入段階では、リズム・リーディングなどを通して、英文を暗誦できるレベルまで高めておくとい

事前にスラッシュリーディングをさせておく。慣れてきたらスラッシュなしで、相手が訳しやすいところで止めながら音読をできるよう指導する

ペアの立ち位置、互いの距離、アイコンタクト、訳し手は何も持たないこと、などに気を配る

時間を指定して、緊張感を高める

毎回交代で、何組かのペアにデモンストレーションをさせる

用具・プリントなど

ストップウォッチ

【即興】『1分モノログ』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - コミュニケーション(3年 国際コース)

英語 (国際コース・普通コース)・リーディング(3年 普通コース)

ねらい

自らの体験などをモノログする練習を通してスピーキング力、とくに「流暢さ」を養成する
「考えて話す」ための思考的な負荷と時間的な負荷を与えることで言語能力を高める

方法

「話すテーマ」と「規準となる発語数(WPM)」を板書などして確認する
ペアを作り、「話し手」と「聞き手」を決める
「話し手」は何も持たず、「聞き手」の顔を見る
「聞き手」は、ワード・カウンターを持ち、準備する
教師の「スタート!」の合図により、「話し手」は1分間、一方的にできるだけたくさん話す
「聞き手」は、「話し手」の発語数をワード・カウンターにより数えながら聞く
教師の「ストップ!」の合図で「話し手」は話すのをやめる
「聞き手」は「話し手」の発語数を告げ、「話し手」はポートフォリオに記す
「聞き手」は「話し手」の話した内容に質問があれば手短かに英問英答を行う
「話し手」と「聞き手」を交代して、同様に行う
話された内容やWPMについて全体の様子を集約する

留意点

1分間モノログでは、「話すテーマ」は「身近な出来事」や「自分自身に関すること」とし、話す前に情報を取り入れたり整理したりすることなく、発話できる話題を用いる。ただし、必要なら理由や具体的な説明を加えるように促す

例:「昨夜何をしたか」、「訪れてみたい国」、「今心配なこと」、「一番幸せな時間」
教師は巡視により生徒の発話内容をよく聞き、個人および全体への形成的評価を必ず行う
ペアの立ち位置、互いの距離、アイコンタクト、話し手は何も持たないこと、などに気を配る
個人および全体のWPMの変化に気を配る
状況を集約した後、デモンストレーションをさせる

用具・プリントなど

ストップウォッチ
ワード・カウンター

【即興】『2分モノログ』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - コミュニケーション(3年 国際コース)

ねらい

自らの意見や主張をモノログする練習を通してスピーキング力、とくに「流暢さ」と「内容の適切さ」を養成する

「考えて話す」ための思考的・時間的な負荷を与えることで言語能力と思考力を高める

方法

「話すテーマ」と「規準となる発語数(WPM)」を板書などして確認する

テーマについて考える時間(ブレンストーミング)を30秒～1分程度与える

ペアを作り、「話し手」と「聞き手」を決める

「話し手」は何も持たず、「聞き手」の顔を見る

「聞き手」は、ワード・カウンターを持ち、準備する

教師の「スタート!」の合図により、「話し手」は2分間、一方的にできるだけたくさん話す

「聞き手」は、「話し手」の発語数をワード・カウンターにより数えながら聞く

教師の「ストップ!」の合図で「話し手」は話すのをやめる

「聞き手」は「話し手」の発語数を告げ、「話し手」はポートフォリオに記す

「聞き手」は「話し手」の話した内容に質問があれば手短かに英問英答を行う

「話し手」と「聞き手」を交代して、同様に行う

話された内容やWPMについて全体の様子を集約する

留意点

2分間モノログでは、「話すテーマ」は「身近だが賛否両論のある話題」とし、授業を通して、あるいは個人的・日常的に情報を取り入れたり整理したりする必要がある

例、「携帯電話」、「インターネット」、「高校生の制服」、「アルバイト」

教師は巡視により生徒の発話内容をよく聞き、個人および全体への形成的評価を必ず行う

ペアの立ち位置、互いの距離、アイコンタクト、話し手は何も持たないこと、などに気を配る

個人および全体のWPMの変化に気を配る

状況を集約した後、デモンストレーションをさせる。あるいはディスカッションやディベートなど、自分の意見を通してテーマにより深く関わりながらコミュニケーションを図る活動へと繋げる

用具・プリントなど

ストップウォッチ

ワード・カウンター

【即興】インタビューテスト：スピーキング

記録者 - 佐藤将記

科目名 - 英語表現

ねらい

スピーキング能力の育成

方法

1人5分程度におさめる。

3問出題する。第1問の質問は事前に知らせておく。(Prepared な状態でのスピーキング)

第2問は即興でのスピーキング力、コミュニケーション力を評価する。

第3問は英検準1級の過去問を用いる。

留意点

自信を持って話させる。

用具・プリントなど

Evaluation Sheet (次頁参照)

English Expression, 2nd-Term End-Term (2006)
INTERVIEW TEST

No. _____ Name _____

TOTAL _____ / 20

1. What do you think the definition of success is? (7)

(1) 1-minute speech

more than 45 sec.	2
30 - 45 sec.	1
less than 30 sec.	0

(2) Contents 3 / 2 / 1 / 0
(enough contents and explanation)

(3) Fluency 2 / 1 / 0

2. When does someone become an adult? Do you consider yourself to be an adult? (8)

(1) Contents 3 / 2 / 1 / 0
(enough contents and explanation)

(2) Correctness in Grammar 3 / 2 / 1 / 0

(3) Fluency in Interchange 2 / 1 / 0

3. Narrate the story (5)

(1) Relevance 2 / 1 / 0

(2) Correctness in Grammar 3 / 2 / 1 / 0

【即興】『ディスカッション』

記録者 - 住田 恒三
科目名 - 英語表現（第3学年）

ねらい

興味深いテーマに関わる新聞記事等を活用し、生徒の社会意識を高める。

方法

各時間ごとの担当者を決め、英字新聞やインターネット等を活用し、話題となる記事を探させる。

Questions for Comprehension and Questions for Discussion を考えさせる。

記事を音読し、全体像をつかませる。

Questions を活用し、担当者が MC になり、議論を進める。

結論に到達しなくても、時間内議論を続ける。

留意点

「分らないことを分らない」「聞き取れないことを聞き取れない」と言うことのできる学習環境を作る。

用具・プリントなど

担当者が作った新聞記事等

【即興】英 日

『リスニング・トランスレーション 3』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - コミュニケーション (3年 国際コース)

ねらい

モノログ活動の発展形として、モノログのペアに「通訳者(訳し手)」を配置することにより、「通訳者」のリスニング力の伸長を図る。

「(英語の)話し手」の発話内容を日本語に翻訳して確認することを通じて、「(発話の)内容の適切さ」に対する意識を高める

翻訳に時間的な負荷を与えることで言語能力を高める

方法

「話すテーマ」、「制限時間」、「規準となる発語数(WPM)」を板書などして確認する

3人グループを作り、「(英語の)話し手」、「(英語 日本語の)訳し手」、「聞き手」を決める

「話し手」と「訳し手」は何も持たず、「聞き手」の顔を見る

「聞き手」は、ワード・カウンターを持ち、準備する

教師の「スタート!」の合図により、「話し手」は英語でテーマについて話し始める

「訳し手」は「話し手」の話した内容を逐次日本語になおして話す。ただし、両者とも「流暢さ」に配慮して、止まらずに話し続ける

「聞き手」は、「話し手」の発語数をワード・カウンターにより数えながら聞く

教師の「ストップ!」の合図で「話し手」と「訳し手」は話すのをやめる

「聞き手」は「話し手」の発語数を告げ、「話し手」と「訳し手」はポータフォリオに記す

グループで「話し手」の発話内容の「評価」、および翻訳がし難かった表現の確認などを行う

役割を交代して順次行う

留意点

「訳し手」の翻訳内容が妥当であったか、グループで検討させる

「話し手」の発話の「流暢さ(WPM)」を確認するだけでなく、「内容の適切さ」についても3段階(A・B・C)程度の評価をさせる

用具・プリントなど

ストップウォッチ

ワード・カウンター

【即興】日 英

『リスニング・トランスレーション 3』

記録者 - 西 巖弘

科目名 - コミュニケーション(3年 国際コース)・英語 (1年 国際コース)

ねらい

「話す内容を考えて」「それを英語になおして話し」「自分の発話の量と質を自己評価する」という、スピーキングにおいては本来一人で果たすべき3つのプロセスがある。これらを、それぞれ「意見者(話し手)」、「通訳者(訳し手)」、「評価者(聞き手)」の3人に分離してスピーキング活動を体験し、「思考」、「言語」、「評価」のそれぞれの働きに気付かせることを通じて、モノログ活動への移行をスムーズに行えるような知識と技能を身につけさせる

翻訳に時間的な負荷を与えることで言語能力を高める

方法

「話すテーマ」、「制限時間(モノログの1.5倍が目安)」、「規準となる発語数(WPM)」を板書などして確認する

3人グループを作り、「(日本語の)話し手」、「(日本語 英語の)訳し手」、「聞き手」を決める

「話し手」と「訳し手」は何も持たず、「聞き手」の顔を見る

「聞き手」は、ワード・カウンターを持ち、準備する

教師の「スタート!」の合図により、「話し手」は日本語でテーマについて話し始める

「訳し手」は「話し手」の話した内容を逐次英語になおして話す。ただし、両者とも「流暢さ」に配慮して、止まらずに話し続ける

「聞き手」は、「訳し手」の発語数をワード・カウンターにより数えながら聞く

教師の「ストップ!」の合図で「話し手」と「訳し手」は話すのをやめる

「聞き手」は「訳し手」の発語数を告げ、「話し手」と「訳し手」はポートフォリオに記す

役割を交代して順次行う

グループで「話し手」の発話内容の検討、翻訳がし難かった表現の確認などを行う

テーマとして「賛否両論ある話題」を扱った場合は、役割をそのまま維持し、グループ対抗のトーキング・マッチへと発展させる

留意点

「話し手」の発言がなければ、「訳し手」は発話できないこと、すなわち「話す内容を考えること」がすべての出発点であることに気付かせる

英語話者としては、本来は一人で、「意見者」「通訳者」「評価者」の3者の役割を行っていることに気付かせる

モノログ活動へと発展させ、「話し手」と「訳し手」を兼務することの負荷を感じさせる

役割を分離したままトーキング・マッチを行い、「意見者」「通訳者」「評価者」の各役割の重要性や困難さについての認識を深めさせる

用具・プリントなど

ストップウォッチ

ワード・カウンター

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	オーラル・コミュニケーション	2	1年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを正しく理解した上で、自分の考えを伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書・副教材等	ORAL COMMUNICATION EXPRESSWAYS Advanced Edition (開隆堂) エクスプレスウェイズ アドバンスド ワークブック(開隆堂)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第1学期	Lesson1 Lesson2	4	英語を使ってコミュニケーションを図ることに慣れるとともに、基礎的な英語力を養うことを主目標とする。定期的に英作文の課題を課し、自分の考えや意見を英語で表現する力を養う。	毎時間の1分間モノログ活動を通じて、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。	実施しない
		5			
	Lesson3 Lesson4 ショウアンドテル Lesson5	6	英語を用いてのコミュニケーションをより積極的に行う態度の養成を図るとともに基礎的な英語力を養う。 英語のエッセイの構成、書き方について学習し、より適切な表現力を養う。		インタ ビューテ スト
		7			
		[課題・提出物等] ジャーナル・ライティング、ショウアンドテル、プレゼンテーションの原稿等			
	[第1学期の評価方法] 授業内での小テストやショウアンドテルなどの活動、ジャーナル・ライティングの課題・インタビューテスト等を総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第2学期	Lesson6 Lesson7 Lesson8	8	単独あるいはペアやグループ内で身近な話題について話し合う中で、情報や他者の考えなどを理解した上で、自分の考えを的確に伝える能力を養う。 英作文の課題を課し、学習した単語・連語・構文・文法知識などの定着を図るとともに、自分の考えや意見が理解されるように、整理して表現する力を養う。	毎時間の2分間モノログ活動を通じて、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。	エッセイ・ラ イティング
		9			
	スピーチ Lesson9 Lesson10	10	英語によるスピーチをする上で必要な構成や発表の仕方について学習する。		インタ ビューテ スト
		11			
		12			
	[課題・提出物等] 夏休みの課題としてのエッセイ、ジャーナル・ライティング、スピーチの原稿等				
	[第2学期の評価方法] 定期考査、授業内での小テストやスピーチなどの活動、エッセイライティングの課題等を総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	カナダ語学研修に向けたカナダ・プロジェクト (自分自身や家族・友人、舟入高校、広島、日本の文化の紹介)	1	1, 2学期に学習した内容を復習し、さらに発展させるための活動を行う。 身近な問題について良い点や悪い点、自分の意見を即興で述べられるようにする。	<u>300語程度のエッセイが書けるようになり、1分間で90語程度のスピーチができるようになる</u>	インタビューテスト
		2	パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについての基礎知識のより一層の定着を図る。		
		3			
	【課題・提出物等】エッセイライティング、プレゼンテーションの原稿等				
	【第3学期の評価方法】第3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】各学期においての定期考查、授業内での小テストやプレゼンテーションの内容、エッセイライティングの課題等を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	授業内では、まずは間違えることを恐れずに積極的に英語を話すことが重要である。授業で学習した重要表現や、自分が発表する予定になっているショウアンドテル、スピーチなどのプレゼンテーションの内容は意味を理解した上で何回も口に出して練習し、英文を見なくても言えるようにすることが大切である。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	英語で授業が行われるので、発言は英語で行う。理解できないことがある場合は積極的に質問をすること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりした内容について、積極的に自分の意見や考えを述べようとする。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を総合的に判断する。
表現の能力	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりして得た情報に関して、自分の意見や考えを相手に理解されるように整理して表現することができる。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を評価する。スピーチでは1分間に90語程度、ディスカッションでは1分間に60語程度、英作文では300語程度を規準とする。
理解の能力	身近な話題・場面・状況において、英語を読んだり、聞いたりして、内容を正しく理解した上で、英語を正確に伝えることができる。	定期考查、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を理解の能力の観点で、総合的に判断する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけ、様々な国の文化や身近な話題に関する人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。	定期考查、ジャーナルノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を知識・理解の観点で、総合的に判断する。

3 担当者からのメッセージ

とにかく英語を声に出すことを心がけてください。少々の間違いにはこだわらず、楽しみながら頑張りましょう。 Practice makes perfect!

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語	3	1年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常的な話題について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で表現したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
使用教科書・副教材等	『CROWN I』(三省堂)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第1学期	Warm-up	4	これからの英語学習の方向を知る	辞書を引く	中間考査 lesson1,2
	Lesson 1 New Faces, New Places		自己紹介の形式を知る 基本的な文の形(5文型)/不定詞(名詞的用法)	音読活動を毎時間行なう (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウイスパー)	
	Lesson 2 When I Was Sixteen	5	星野道夫の生き方を通し、将来について考える スピーチの形式を知る 不定詞(副詞・形容詞用法)/現在完了形/動名詞/SVO(O=疑問詞・if節)	1分間に100語の速さで音読ができることを目標とする	期末考査 lesson 3,4
	Lesson 3 Abu Simbel-Rebirth on the Nile-	6	自然遺産と文化遺産の価値を理解する レポート記事の形式を知る 関係代名詞/分詞の形容詞的用法/S+is+that節	英問英答やリスニングを行う	
	Lesson 4 Punana Leo-A Voice of Hawaii-	7	言語と民族の関係を知り、母語とは何かを考える スピーチの形式を知る 過去完了形/seem/SVOC		
[課題・提出物等] 春課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
[第1学期の評価方法] 春課題テストと中間・期末考査の定期考査に平常点を加味して総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第2学期	Lesson 5 Diving into Mystery	8	未知の物を科学的・論理的に分析する プレゼンテーションの形式を知る 関係副詞/SVOC(C=原形不定詞)/受動態の完了形	音読活動を毎時間継続する (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウイスパー)	中間考査 lesson 5,6
	Lesson 6 Living with Chimpanzees		動植物との共生を考える インタビューの形式を知る 分詞構文/it~that...(形式主語)/時制の一致	1分間に110語の速さで音読ができることを目標とする	
	Activity Workshop 3 Reading Classifies	9	新聞広告を読み、スキミングの練習をする	1分間に110語の速さで音読ができることを目標とする 英問英答やリスニングを行う	期末考査 lesson 7,8
	Lesson 7 Not So Long Ago	10	20世紀がどんな時代だったかを考察し、教訓を21世紀にどう生かせるかを考える スピーチの形式に慣れる		
	Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown	12	仮定法過去/SVO1O2(O2=疑問詞)/付帯状況 本当の強さとは何かを考え、人を思いやることの大切さを知る 新聞記事の形式を知る 仮定法過去完了/no matter + 疑問詞/be to 構文		
[課題・提出物等] 夏課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
[第2学期の評価方法] 夏課題テストと中間・期末考査の定期考査に平常点を加味して総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	Activity Workshop 5 Making Decisions	1	あるものを選択し、その理由を述べる文に慣れ、実際に試してみる	音読活動を毎時間徹底する。 (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウイスパー) ・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする ・英問英答やリスニングを行う	学年末考查 Workshop 5, Reading 2
	Reading 2 The Green Door	2	・物語を読む ・セリフに感情を込め、朗読してみる ・Lesson 1～8の言語材料の復習		
		3			
[課題・提出物等] 冬課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
[第3学期の評価方法] 冬課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点を加味して総合的に評価する。					

[年間の学習状況の評価法]
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の単語がすべて読み、単語・熟語の意味をすべて言えて、書けるようにする 教科書の本文がスラスラ音読できて、文脈に沿って訳せるようにする 教科書の問題が解けるようにする
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業中には必ずノートを取り授業内容を理解するように努める 授業中に英語をリズムよく、たくさん声に出して音読する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	興味関心をもって、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	活動観察(音読、ペアワーク、発表) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
表現の能力	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	活動観察(音読、ペアワーク、発表、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
理解の能力	日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするのを英語で理解する。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック

3 担当者からのメッセージ

中学の英語と違って、高校の英語はレベルが高くなるのはもちろん、学習内容が多くなり、授業のペースも速くなる。中学校と同じ勉強のやり方では、ついていけなくなってしまう。高校の英語学習を軌道に乗せるために、次の3点を留意して欲しい。 予習・ノート作りを習慣化する。 英語を何度も聞き、何度も音読する。 辞書を引く。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	総合英語	2	1年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うと共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	『DUAL SCOPE English Grammar in 27 Stages』(数研出版) 『チャート式新総合英語』(数研出版) 自主作成補助プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson 1 ~ 5 文の要素と文型、時制	4	英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。 ・文の要素と第1文型から第5文型を個々の動詞と結びつけて表現として理解させる。言語材料を実際にいろいろな言語活動において使用させながら定着を図る。第4文型と第3文型の書き換えについて、とりわけ、to, for, of をとるかどうかの説明をする	CALL教室あるいはLL教室の特性を生かして <u>Recitation Practice</u> や <u>Pattern Practice</u> を取り入れ、数多くの発話練習(Oral Production)を行う	中間考查 Lesson 1 ~ 5 ・文の要素と文型 ・文の種類、時制 ・補助プリント
	Lesson 6 ~ 10 完了形、助動詞	5	・時制においては、単純未来、意志未来の用語、現在のある時点での進行中の動作 繰り返し行われる動作 近い未来の予定についても扱う		期末考查 Lesson 6 ~ 10 ・完了 ・助動詞 ・補助プリント
		6	・完了については、完了(結果)・経験・継続の各用法を学習するとともに、過去と大過去についての違いを扱う ・助動詞については、中学校で学習した内容を復習すると共に相手の意思を尋ねる表現、want とwould likeとの違い、should, had better, must の義務の強さの程度を理解させる		
		7			
【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に60語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 11 ~ 15 動詞の態、不定詞	9	・態ではどのような場合に受動態を扱うのかを十分に理解させ、be動詞+過去分詞の形を理解させ、能動態と対比させながら導入また、受身としてでなくイデオムとしての表現 (be made of, be covered with, be known toなど) を教えることと、群動詞の受動態 (They say that, It is said that..) についても扱う	<u>Recitation Practice, Response Practice, ペアワーク等を行い、インプットされた知識をアウトプットに結びつける活動を継続していく</u>	中間考查 Lesson 11 ~ 15 ・動詞の態 ・不定詞 ・補助プリント
	Lesson 16 ~ 19 動名詞、分詞	10	・不定詞では名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法についての説明、to 不定詞でなくofをとる形容詞についても触れる。また、慣用的な表現である、in order to, so as to, too ~ to...などについても練習問題を解くことによって定着を図る		期末考查 Lesson 16 ~ 19 ・動名詞 ・分詞 ・補助プリント
		11	・動名詞については動名詞をとる動詞 (enjoy, finish, mind など)、動名詞と不定詞をとる動詞 (like, stop, try..) やその意味の違いについて理解させる ・分詞では現在分詞と過去分詞の違いや用法についての説明、どのような場合に現在分詞、過去分詞をとるのかについて文脈から判断することを理解させる		
		12			
【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に70語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	Lesson 20、21 比較	1	・比較では規則変化と不規則変化の形容詞について説明をし、最上級において of, in の違いについての理解を図る。比較級や最上級を強める語についても触れる	<u>アウトプット面のトレーニングを継続する</u>	Lesson 20 ~ 26 ・比較 ・関係詞 ・仮定法 ・補充プリント
	Lesson 22 ~ 24 関係詞	2			
	Lesson 25,26 仮定法	3	・関係詞では who, which, that についての基本的な学習に、that の好まれる例文について触れ、関係副詞の働きや用法についても理解させる ・仮定法では仮定法過去や仮定法過去完了についての意味の説明や用法について理解させる。また、If のない仮定法についても触れる		
【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。					
【第3学期の評価方法】 定期考査、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。3学期末は1年間の総合評価とする。1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。					

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。欠課時数については1年間の時数を成績の評価の対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	総合英語の授業では英文法を系統立てて学習します。内容量も多いため予習が不可欠です。予習をすることで自分が分からないところが明確になり、授業を受けた後の授業内容における理解の度合いが全く違ってきます。また、授業中に分からなかった事は、その日の内に質問をし、解決することが大切です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	予習時の疑問点や不明な点を理解できるよう、集中して授業を受けてください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を図ろうとしたか。間違うことを恐れず、自分の考えなどを表現しようとしたか。	・小テストや週末の課題及びノート提出状況によって評価する。
表現の能力	初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話したり、書くことができたか。	・考査問題に表現を問う問題を作成して評価する。 ・1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。
理解の能力	初歩的な英語の情報を正しく読み取ることができたか。	・定期考査の評価点で評価する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識、例えば、文の構造などについての知識を身につけたか、また、学習の中で取り扱われた文化について、例えば、物の見方や考え方などの違い、身近な生活・風俗習慣等を理解できたか。	・単語、発音、構文、文法を問う問題を設定して評価する。

3 担当者からのメッセージ

学習習慣の確立をし、主体的に学ぶ姿勢を身につけましょう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語	3	2年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばし、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにするとともに新聞やインターネット等の媒体を活用し、時事問題に関わる投げ入れ教材を活用し、生徒の社会意識を高める。
使用教科書・副教材等	『PRO-VISION ENGLISH COURSE 』(桐原書店) 『現代を読む Catch our times』(桐原書店) 『英単語ターゲット1900』(旺文社) 『英熟語ターゲット1000』(旺文社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第1学期	Lesson 1 Around the World in Lionheart	4	内容理解 ・夢を持ち続け、それを実現することの大切さを知る 言語材料 ・「関係詞」、「現在完了と過去完了」、「仮定法過去と仮定法過去完了」 機能表現	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、本文をCDやテープを使って音読練習をする ・1分間に130語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーション、シャドーイング等を行う ・1分間モノローグを行う 	中間考査 Lesson 1,2
	Lesson 2 A Visitor	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ある家族と一人の若者との出会いから始まる物語を読み、心のふれあいの大切さを学ぶ ・「SVOC(過去分詞)」「It is 形容詞 of ~ to 不定詞 「過去分詞で始まる分詞構文」 		
	Lesson 3 Gender Stereotypes	6	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の役割や能力などについての固定観念を知り、自分と自分の可能性を見渡す視座に触れる ・「SVC(現在分詞)」、「倒置」、「同格のthat」 		期末考査 Lesson 3,4
	Lesson 4 Mama Tina Loves Us	7	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスティーナ・ノーブルの行動や言葉から、社会貢献にとりくむひとつの姿勢を学び取る ・「SVC(V=be C=what節・whether節など)」、「whatなどの疑問詞+do you think ~?」、「S+seem+to ~とIt seems that節」 		
【課題・提出物等】 ・週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 ・春課題テスト、定期考査、小テスト、モノローグ等で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 5 Still Me: Christopher Reeve's Choice	8	・クリストファー・リーブの手記から、彼を支えた家族の果たした役割や友情の尊さを読み取る ・「文修飾の副詞」、 「whatever, whoever, whenever」、 「wishを使った仮定法」	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、本文をCDやテープを使って音読練習をする ・<u>1分間に140語の速さで音読ができることを目標とする</u> ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーション、シャドーイング等を行う ・2分間モノローグを行う 	中間考查 Lesson 5,6
	Lesson 6 Genetically Modified Foods	9	・賛否両論のある遺伝子組み換え食品について知り、先端技術を自分がどのように受け止めるかを問う ・「SVOC(V=have C=過去分詞・原型不定詞)」「受け身の進行形」「ifのない仮定法」		
	Lesson 7 Two Flags, One Runner	10 11	・シドニーオリンピック金メダリストキャシー・フリーマンの物語を読み、民族の和解と共生について学ぶ ・「動名詞の完了形」、「with + 名詞 + 分詞」、「未来完了形」		期末考查 Lesson 7,8
	Lesson 8 Dialogue Is More than Just Talk	12	・国際社会とこれからの新時代に求められる「対話」とはどうあるべきかを考える ・「It is + 名詞(形容詞) + what節・whether節」、「部分否定」、「未来進行形」		
【課題・提出物等】 ・週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 ・夏課題テスト、定期考查、小テスト、モノローグ等で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	Lesson 9 Another "Hey Jude"	1	・マルタ・クビショバの歌う「ヘイ・ジュード」について読み、音楽・芸術が持つ大きな力について考える ・「原級・比較級・最上級」、「be+to不定詞」、「as if+仮定法」	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・語句の意味を確認し、本文をCDやテープを使って音読練習をする ・<u>1分間に150語の速さで音読ができることを目標とする</u> ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーション、シャドーイング等を行う ・2分間モノローグを行う 	学年末考查 Lesson 9,10
	Lesson 10 The Nature Far from Us	2	・アラスカに魅せられた写真家星野道夫氏の物語を読み、氏の自然観を共有する		
		3	・「結果の不定詞」、「前置詞 + 関係代名詞」、「完了分詞構文」		
【課題・提出物等】 ・週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第3学期の評価方法】 ・冬課題テスト、定期考查、小テスト、モノローグ等で評価を行う。					

<p>【年間の学習状況の評価法】</p> <p>・年間を通した総合評価を行う。</p>

<p>確かな学力をつけるアドバイス</p>	<p>・毎日英語を書き、読み、聞き、話すようにしよう</p> <p>・テレビやラジオの英会話等の講座を積極的に利用しよう</p>
<p>授業を受けるに当って守ってほしい事項</p>	<p>・予習復習を必ずすること</p> <p>・配布されたプリント等はファイル等に整理しておくこと</p> <p>・4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)が総合的に習得できるよう、それぞれの活動に積極的に取り組むこと</p>

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
<p>関心・意欲・態度</p>	<p>聞いたこと・読んだことを理解し、様々な情報や自分の考えを英語で用いて表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</p>	<p>定期考査、授業中の発表、小テストや週末課題提出状況等によって評価する。</p>
<p>表現の能力</p>	<p>幅広い話題について、情報や考えなど伝えたいことを整理して英語で話したり、書いたりして表現する。</p>	<p>定期考査、Q and A、モノログ等によって評価する。</p>
<p>理解の能力</p>	<p>幅広い話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするのを整理して理解する。</p>	<p>定期考査、Q and A、リスニングによって評価する。</p>
<p>知識・理解</p>	<p>幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。</p>	<p>定期考査、Q and A等によって評価する。</p>

3 担当者からのメッセージ

<p>・日々の積み重ねが大切です。その日にやらなければならないことは必ずその日にしよう</p> <p style="text-align: center;">Never put off till tomorrow what you can do today.</p> <p>・学習方法について悩みがあれば気軽に相談に来て下さい</p>
--

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語表現	2	2年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>(1) 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける</p> <p>(2) 相手によくわかるように英語を話し・書く。わかりやすい例を示しながら、身につけている限られた英語力で、伝えたいことを表現するための工夫をする。工夫を施す上で、正しい英文を書くのに必要な語彙・文法・構文などに関する知識を身につけ、運用できるようにする。</p> <p>(3) 論理的に意見を述べることができる</p> <p>(4) 段落の展開など、構成に留意した文章を書くことができる</p> <p>(5) 英語を話し・書く活動の背景となる文化や社会などについて理解と関心を深めた上で、自分の意見を持ち、それを的確に表現することができる</p>
使用教科書・副教材等	Impact ISSUES (Longman) 基礎和英問題精講ライティング(旺文社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	・エッセイの書き方(1)	4	<p>・300語程度のエッセイを書くための基礎知識を学習する</p> <p>・スピーキング能力の向上とコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度の育成を図る</p> <p>・自分の考えなどを整理して書くという言語活動・即興でのスピーキング力の養成</p> <p>・「話すこと」「書くこと」によって自分の考えや気持ちをより効果的に伝える力の育成。Peer Revisionでは、他の生徒の書いた英文に的確なコメントを加えることができるよう、評価する側としての力量も高める</p>	<p>・生徒の言語活動を活発にインストラクトする形でのALTの位置づけに留意する</p> <p>・毎時間、流暢さの向上を図るためのトレーニングを授業内に行う(通年)</p>	<p>インタビューテストとエッセイライティング</p> <p>与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く</p>
	・ディスカッション(1)	5			
	・Peer Revision(1)	6			
	・即興スピーチ(1)	7			
	・ディスカッション(2)				
	・Peer Revision(2)				
	・エッセイの書き方(2)				
	・Peer Revision(3)				
	・ディスカッション(3)				
【課題・提出物等】					
<p>(1) Peer Revision(1)(2)(3)において、それぞれDraft1～Draft3の提出</p> <p>(2) ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる</p>					
【第1学期の評価方法】					
<p>(1) ディスカッションなど、インタラクティブな活動における積極性を評価する</p> <p>(2) Peer Revision(1)(2)(3)それぞれのDraft 3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する</p> <p>(3) 定期考査におけるインタビューテスト(20点)、エッセイライティングのテスト(80点)、を評価する</p> <p>(4) 即興スピーチを20点満点で評価する</p>					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	・パブリックスピーチ ・ディスカッション(4) ・Peer Revision(4) ・インフォーマル・ディベート(1) ・ディスカッション(5) ・Peer Revision(5)	8	・コミュニケーション活動としてのスピーチの実践。発表者および聞き手としてのスピーチ活動の理解を深める ・コミュニケーション活動としてのディベートの実践。論理的に意見構成する力、相手の発言を正確に聞き取る力、限られた時間内に意見をまとめ、発言する力の育成を図る。スピーキングにおける流暢さ、即時性を高める ・プレゼンテーション活動。自らが調べた事柄をいかに聞き手にわかりやすく、且つ、興味を引くよう伝えることができるか、その手法を研究し、効果的に実践する	・夏期休暇中の課題として、スピーチ原稿を完成させる ・即興性を要求する活動としてインフォーマル・ディベートを位置づける ・プレゼンテーション方法についての工夫が求められる ・即興性、より豊かな表現力を養成する活動としてロールプレイングを位置づける	インタビューテストとエッセイライティング 与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		9			
		10			
		11			
		12			
【課題・提出物等】 (1) パブリックスピーチの原稿の提出 (2) Peer Revision(4)(5)(6)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 (3) ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる					
【第2学期の評価方法】 1 ディスカッション、インフォーマル・ディベート等における積極的な態度を評価する 2 Peer Revision(4)(5)(6)それぞれのDraft3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 3 定期考査における、インタビューテスト(20点満点)、エッセイライティングのテスト(80点)を評価する 4 パブリックスピーチを20点満点で評価する					
学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	・エッセイの書き方(3) ・ディスカッション(7) ・Peer Revision(7) ・グループ・プレゼンテーション ・インフォーマル・ディベート(2) ・ディスカッション(8) ・Peer Revision(8) ・即興スピーチ(2)	1	・ディスカッションを通してブレインストーミングを行い、自分でリサーチを行い、論理的・客観的かつ説得力のある文章を書く力の育成を図る ・グループごと、テーマにそったリサーチを行い、十分な調査・研究に基づいた、客観的で説得力のあるプレゼンテーションを行う活動。論理的なプレゼンテーションを構成し、聞き手にわかりやすく発表する力を問う ・3学期は特に、「要約」の仕方に焦点を当てて、議論能力の向上を図る	・具体的な統計データなどを用いて説得力を持たせることを理解させる ・論を深めるためのリサーチの重要性と発表に説得力を持たせるためのプレゼンテーションにおける工夫について考えさせる	与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		2			
		3			

第 3 学 期	<p>【課題・提出物等】</p> <p>(1) Peer Revision(7)(8)において、それぞれDraft1～Draft3の提出</p> <p>(2) ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる</p> <p>(3) グループプレゼンテーションのアウトラインにつきまとめ、提出する</p>
	<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>(1) 授業への積極的な参加。特に、インタラクティブな活動における積極性</p> <p>(2) Peer Revision(7)(8)それぞれのDraft3について、E S L Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する</p> <p>(3) 考査では、エッセイライティングのテスト(100点満点)を評価する</p> <p>(4) 即興スピーチを20点満点で評価する</p>

<p>【年間の学習状況の評価法】</p> <p>各学期での評価を総合的に判断し、年間の評価とする。</p>

<p>確かな学力をつけるアドバイス</p>	<p>読み手、聞き手が理解しやすく、かつ説得力を持った表現とはなにかを追究する。そうすることで論理的に文章を構成する力、説得力のある発言や発表の仕方が身につきます。</p>
<p>授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p>	<p>提出物の提出期限を必ず守ること。特に、エッセイの提出が遅れるとPeer Revisionが機能しなくなるため年8回のエッセイは期日内に必ず提出しなければならない。</p> <p>年間を通じて行われる、流暢さを高めるトレーニングやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの場面で積極性を発揮すること。</p>

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
<p>関心・意欲・態度</p>	<p>身近な話題について、聞いたり、読んだりして得た情報やその話題についての自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう英語で表現しようとしている。</p> <p>伝えたい内容を正確に表現するための工夫をしている。</p> <p>エッセイを書いたり、ディスカッションしたりする際に必要となる、文化や社会の事柄についての関心と理解を深めようとする態度を持っている。</p>	<p>(1) インタビューテストの評価点</p> <p>(2) パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点</p> <p>(3) 定期考査の得点</p> <p>(4) 授業中の様々な表現活動において、積極的であったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなど</p>

表現の能力	<p>自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう、適切な英語で表現できている。</p> <p>論理的な文章表現、スピーチの内容などに論理性があり説得力を持った発話ができている。</p>	<p>(1) 年8回提出するエッセイの評価点</p> <p>(2) インタビューテストの評価点</p> <p>(3) パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点</p> <p>(4) 定期考査の得点</p> <p>(5) 授業中の様々な表現活動において、じっくり考えて発言できているか。また、主体性を持って判断しているかなど</p>
理解の能力	<p>エッセイライティングやスピーチ、ディスカッションなどの活動において、効果的な資料の提示や客観的で説得力のある内容のものが構成されているか。</p>	<p>(1) 年8回提出するエッセイの評価点</p> <p>(2) パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点</p> <p>(3) 定期考査の得点</p> <p>(4) 授業中のプレゼンテーション、インフォーマルディベートやディスカッションにおいて、資料活用の有効性や表現の適切さなど</p>
言語や文化についての知識・理解	<p>正しい英文を書き、話すのに必要な語彙・文法・構文・文章の構成に関する知識を身につけている。</p> <p>エッセイライティングにおいて、段落の展開、あるいは段落ごとのつながりに留意した英文を書くことができる。</p> <p>外国の事情や自国の事情、異文化を理解するための背景知識を持っている。</p>	<p>(1) 年8回提出するエッセイの評価点</p> <p>(2) インタビューテストの評価点</p> <p>(3) パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点</p> <p>(4) 定期考査の得点</p> <p>(実用英語検定試験2級程度の文法知識を身につけることを目標とする)</p>

3 担当者からのメッセージ

客観的に物事を判断し、考え、そして自分の考えを論理性を持たせて表現できるようになることを目標としています。そのためには、400語程度の英文を書くことに早く慣れること。また、正しく、流暢に英語を話せるようになりたいという強い気持ちを持ち続けることが大切です。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	異文化理解	2	2年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)幅広い題材の教材を使用して、多様な話題に関する人々のものの見方や考え方の違いを理解する。 (2)コンピュータやLLなどを利用することにより、英語の音声的な特徴を習得する。 (3)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	『英語リピーティング入門』(アルク) 『Pronunciation Power CD』(Blackstone Multimedia Corporation) 『個人学習ソフト』(広島市立大学インプット学習プログラム) 自主作成教材

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	英語リピーティング入門 Part-1 Pronunciation Power 個人学習ソフト ペアワーク	4	ストレス・リズム・イントネーションなどに焦点を当て各ユニットのリピーティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、一分間に140語の速さで正確に再現できるようになる。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う	期末考査 ・英語リピーティング入門 Part-1(リスニング・プラスワンダイアログ) ・実力問題(リスニング) ・音読録音
		5	個々の母音・子音を発音する際の口や舌の形・動き・位置等を習得する。		
		6	市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		7	身近な会話のトピックでペアで聞き合っ、内容を報告できる。		
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する。					
【第1学期の評価方法】 定期考査、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	英語リピーティング入門 Part-2 Pronunciation Power 個人学習ソフト 視聴覚教材	9	喜怒哀楽の感情表現をはじめとして会話における効果的な話し方に焦点を当て、各ユニットのリピーティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、さらにプラスワンダイアログを発表させ、一分間に145語の速さで正確に再現し発表できるようになる。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う ・総仕上げとして自作のペアワークをビデオ撮影し相互評価する	期末考査 ・英語リピーティング入門 Part-2(リスニング・プラスワンダイアログ) ・実力問題(リスニング) ・音読録音
		10	連結・同化・短縮形・脱落等の音変化プロセスを理解し、習得する。		
		11	市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		12	視聴覚教材を用い、リスニングやリピーティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行う。題材によっては、テーマ設定をし、グループディスカッションを行う。		
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する。					
【第2学期の評価方法】 定期考査、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	英語リピーティング 入門 Part-3 個人学習ソフト	1	アメリカ大統領の演説を取り上げ、より実践的なスピーチを目指して、リピ - ティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、一分間に150語の速さで正確に再現し発表できるようになる。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動 を毎時間行う ・総仕上げとして 個々の演説を全体 で発表又はビデオ 撮影し相互評価す る	期末考查 ・英語リ ピーティ ング入門 Part-3(リス ニング・ プラスワ ンダイア ログ) ・実力問題 (リスニ ング) ・音読録音
		2	市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		3			
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する					
【第3学期の評価方法】 定期考查、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

【年間の学習状況の評価法】

各学期の評価項目を1年間の評価項目として総合的に評価する。

確かな学力をつけるアドバイス	発声することへの恥ずかしさや間違えることに対する抵抗をなくす。CALL教室やLL教室の特性を生かして、大きな声で正確なトレーニング活動を行う。ペアワーク活動時には相互に良い点・問題点を言い合い、高めあう。
授業を受けるに 当って守ってほ しい事項	授業中に与えられる各自の活動時間の中で、できるだけたくさんのトレーニング活動を行おうとする姿勢と意欲を持つ。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	相手の話を関心を持って聞き、積極的にコミュニケーションしようとする。言語活動を通して異文化への関心と理解を深めようとする。	定期考查、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
表現の能力	正しい音声で話すことができる。幅広い話題・場面・状況において、自分の考えや意見、感情などを流暢かつ正確に表現することができる。	定期考查、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
理解の能力	幅広い話題に関する英文を聞いて、情報や話し手の意向などを正確に理解できる。話された質問、指示、依頼などに対して適切に応じることができる	定期考查、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
知識・理解	英語の音声的な特徴を理解している。様々な国の文化や幅広い話題に関する人々のものの見方や考え方の違いについて理解している	定期考查、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する

3 担当者からのメッセージ

ヘッドセットをついたら、自分だけの世界で集中し、正確に聞き取り、積極的に発声しましょう。同時に、なりきり度を高め、感情を込めた表現をしてください。このような練習することを通じて、確かな英語運用能力の基礎を築くことができます。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語理解	3	3年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語を通して情報や相手の意向などを理解する能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を身につける。
使用教科書・副教材等	『入試準備問題演習 Reading High-level』(ランズ) 『基礎英文問題精講』旺文社 『英単語ターゲット1900』(旺文社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson 1～10	4 5 6 7	英語の重要表現を正しく理解し、用いることができるような技能を身につけ、それを英文読解力の向上に結びつける。 単に英文を読んで何が書いてあるかを理解するだけでなく、理解していることを日本語や英語で表現できることを目指す。	学期に5時間程度、『基礎英文問題精講』を教材として、構文理解、定着のための授業を行う。 毎時間、単語の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	中間考查 Lesson 1～4 期末考查 Lesson 5～10
	【課題・提出物等】 随時、読解力養成のための週課題を課す。				
	【第1学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 11～20	8 9 10 11 12	個々の英文、段落の間との関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し、英文を的確に理解する。 理解したことを的確に日本語や英語で表現できるようにする。	毎時間、単語の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	中間考查 Lesson 11～15 期末考查 Lesson 16～20
	【課題・提出物等】 随時、読解力養成のための週課題を課す。				
	【第2学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	入試過去問読解	1 2 3	個々の英文、段落間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し英文を的確に理解する。 理解したことを的確に日本語や英語で表現できるようにする。	毎時間、単語の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	
	【課題・提出物等】				
	【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じて実践力をつけること。十分に準備をして定期考査や小テストにのぞむこと。 ・わからないところを放っておかず、質問するなどして自ら解決するための努力を施すこと。 ・学習した内容を何度も復習(読み返し)することで読解力を確かなものにする。
授業を受けるに当って守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に英文を読み、設問を解くこと。 ・提出物の期限を厳守する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	関心・意欲を持って、書き手の意向などを理解しようとしているか。未知の語を推測したり、背景知識を活用したりしながら積極的に読もうとしているか。	小テストへの取り組み、課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断して評価する。
表現の能力	ポイントになる語句や文、段落の構成・展開などに注意して音読できるか。学習した構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書くことができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査のライティングの評価点。 ・授業中の音読でのパフォーマンス。1分間に160語の速さで音読ができることを規準とする。
理解の能力	書かれている内容を適切に読みとり、必要な情報を得たり、内容についての質問などに適切に応じることができるか。	定期考査のリーディングの評価点。
知識・理解	言語やその運用について、正しい知識を身につけているか。様々な国の文化や、身近な話題に関する人々のものの見方や考え方などの違いについて深く理解しているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

年間を通じての積極的且つ継続的取り組みを期待する。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語	2	3年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1) 英語を「読む」「書く」さらには「聞く」「話す」という目標達成のために必要な英語力をつけるために確実な文法・語法の知識を身につけさせる。 (2) 最終的には正しい文法、語法を学習した上で何を書くべきかという思考力、発想力や与えられたテーマについての問題意識までも含めた総合的な表現力を身につけさせる。
使用教科書・副教材等	『英文法・語法問題集』(研究社) 『入試準備問題演習』 Writing High-level (ラーンズ)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	『英文法・語法問題集』 第8章、第9章 第11章 ～ 第15章 『入試準備問題演習』 Writing High-level 表現1～表現7	4	・英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する ・学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする ・自分の考えなどを整理して、論理的で、正確、かつ適切な英語で表現する	定期的に80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗誦することを徹底する。</u>	中間考查 第8,9章 第11～15章 期末考查 表現1～表現7
		5			
		6			
7					
	【課題・提出物等】 ・学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する ・授業においては日常的に、日本語を英訳する力のトレーニングとしてレシテーションを行う				
	【第1学期の評価方法】 定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	『入試準備問題演習』 Writing High-level 表現8～表現14 ジャンル1 ～ジャンル6	8	・英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する ・学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする ・自分の考えなどを整理して、論理的で、正確で、適切な英語で表現する	定期的に80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗誦することを徹底する。</u>	中間考查 表現8～ 表現14 期末考查 ジャンル1 ～ジャンル6
		9			
		10			
11					
	【課題・提出物等】 学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。				
	【第2学期の評価方法】 定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。 授業においては日常的に、日本語を英訳する力のトレーニングとしてレシテーションを行う。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	『入試準備問題演習』 Writing High-level ジャンル7、8 1年間のまとめ	1	学習した連語・構文・文法知識などを活用して、 正確な英文を書けるように、また、英文を的確 に理解できるようにする。	個人学習ソフトを 用いて自学自習 を行う。 定期的に、80～ 100語程度で自分 の考えを表現する 活動を行う。	与えられた テーマに関 して、100～ 120語程度 の英文で意 見論述する。
		2			
		3			
	【課題・提出物等】 授業ノート、及び、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。				
	【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力を つけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 必ず予習をして授業に臨む わからないところを放っておかず、質問するなどして解決すること 計画的に課題に取り組み、学習した内容をすぐに復習すること
授業を受けるに 当って守ってほ しい事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に自分に合ったメモをとる 授業内容を確実に理解するよう努める 提出物の期限を厳守する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	語彙、文法、文構造などに関心を抱き、学習した内容を活用して、積極的に自分の考えを表現しようとする態度を持っているか。	課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断し評価する。
表現の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、正確な英文を書くことができるか。	定期考査の評価点、及び、英作文の課題を評価する。 分間に100語の速さで暗誦ができることを規準とする。
理解の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、的確に英文を理解することができるか。	定期考査の評価点で評価する。
知識・理解	語彙、文法、文構造などの言語知識を身につけているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

・年間を通じての積極的な取り組みを期待します
 ・『継続は力なり』を信じて『日々の積み重ね』に努めてください
 ・出来るだけいろいろな形で英語に触れてください

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	コミュニケーション	1	3年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語によるコミュニケーション能力の伸長を主眼として、現代の社会問題を題材として用いる。とくに議論において、論点を的確に把握し、自らの意見を論理的かつ適切に表現する能力を身につけるとともに、問題解決への方途を探求すべく互いの意志疎通と協議を活発に行おうとする積極的態度を養う。
使用教科書・副教材等	『Debating the Issues』(Macmillan Languagehouse)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Warm-up	4	・授業で用いる基本的な表現の確認と定着	英語のみ使用可 音読を徹底する	中間考查
	アナウンス・リーディング	5	・英語第二公用語論、グローバル化、結婚観などをテーマとする	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	
	レシテーション・スピーチ	6	・資料読み、情報収集、簡易ディベート、ディスカッションを行い、テーマに関する意識を深め、議論するためのコミュニケーション能力を向上する	・テーマごとに300～500語の英文レポートを課す	
	プレゼンテーション	7	・ディベートの意義と方法を学ぶとともに、 <u>トーキングマッチ</u> などを通して、議論に必要な流暢さと論理性を養う		期末考查
	「ディベート」				
【課題・提出物等】 ・英文レポート ・ワークシート(授業中に配布して使用) ・カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第1学期の評価方法】 ・定期考查(50%) ・コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) ・英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	「ディベート」	8	・ディベートにおけるジャッジの方法を学ぶとともに、ディベートの試合を実践し、議論での流暢さと論理性を向上する	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	中間考查
		9			
	「ディスカッション」	10	・グループごとに研究テーマを設定し、調査・資料作りをとおして情報収集・論理的な表現方法を学ぶ ・研究内容のプレゼンテーションとディスカッションを行い、議論での流暢さと論理性を向上する	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う ・議論したテーマごとに100～200語の英文レポートを課す	期末考查
		11			
		12			
【課題・提出物等】 ・英文レポート ・ワークシート(授業中に配布して使用) ・カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第2学期の評価方法】 ・定期考查(50%) ・コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) ・英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	「効果的なコミュニケーションとは」	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートやディスカッションなどで効果的な議論をするために必要なことは何かを学ぶ ・コミュニケーション学の視点から、効果的なコミュニケーションの技法は何かを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う 	学年末考查
		2			
		3			
	【課題・提出物等】 <ul style="list-style-type: none"> ・英文レポート ・ワークシート(授業中に配布して使用) ・カセットテープ(音読やスピーチを提出) 				
	【第3学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查(50%) ・コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) ・英文レポートなどの課題(25%) 				

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して5段階で年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを英語で声に出すスピーキングの練習を毎日行う ・授業で確認した英文・表現や教科書の英文・語彙などは、音読の練習を毎日行う
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のコミュニケーションはすべて英語で行う ・課題の提出期限は厳守する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動への参加度、ワークシート・英文レポートなどの課題の提出状況
表現の能力	身近な問題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のライティングとスピーキングの評価点 ・英文レポートなどの提出物 ・WSAテスト(「話す」は1分間に75語、「書く」は15語の流暢さを規準とする)
理解の能力	身近な問題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを英語で理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のリーディングとリスニングの評価点
知識・理解	身近な問題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート・英文レポートなどの課題の完成度

3 担当者からのメッセージ

2年生から継続して、情報や自分の考えを論理的に表現できることを重視します。さらに、これらを流暢に発信できるよう努力していきます。

授業では、発信能力を養うきっかけとなる活動を行いますが、本当のスピーキング能力をつけるには、ライティングなどと同じく家庭での習慣(いわゆる秘密練習)が欠かせません。当然こういった練習は大学入試にも十分に役立ちます(例、「話せる」=「聞ける」)ので、続けるとなると苦労も多いですが、これに負けず是非ともやり遂げて欲しい。ともに頑張りましょう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	時事英語	2	3年	普通科国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)新聞・雑誌・情報通信ネットワークなどに使われる英語の基礎的な知識と技能を習得する (2)国際状況に関心を持ち、さまざまなメディアを通して国際社会に対する理解を深め、それについて自分の意見を述べる
使用教科書・副教材等	自主教材(英字新聞、TVニュース、インターネット上の時事記事等) e-learning

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	インターネットの使い方 時事英語について 英字新聞 レポート課題(1)	4	時事英語の基礎的な知識を習得する 世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する	インターネットを使用する際の注意事項を知らせる。インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。	期末考查
	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(1) e-learning	5 6	世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する 自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める e-learningを使って音読トレーニングを行う	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	
	プレゼンテーション ディスカッション	7	各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。	
【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)					
【第1学期の評価方法】 ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に25語を評価規準とする ・音読活動は1分間に140語の速さを評価規準とする					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(2) e-learning	8 9 10 11	世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する 自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める e-learningを使って音読トレーニングを行う	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	期末考查
	プレゼンテーション ディスカッション	12	各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。	
【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)					
【第1学期の評価方法】 ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に30語を評価規準とする ・音読活動は1分間に150語の速さを評価規準とする					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第 3 学 期	インターネット上の時事 記事 英字新聞	1 3	世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記 事を読むことにより、その内容を理解する	インターネット、英字 新聞等を通して、世 界情勢を知る。音読 活動を毎時間行う。	学年末考査
	【課題・提出物等】 特になし				
	【第1学期の評価方法】 ・「書く力」は即時性において1分間に30語を評価規準とする ・音読活動は1分間に160語の速さを評価規準とする				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつ けるアドバイス	普段から、日本のみならず、世界の出来事に興味関心を持ち英字新聞や、インターネットを通してその内容を 英語で理解するようにする。
授業を受けるに 当って守ってほし い事項	・予習がある場合には必ずする ・間違いを恐れず、積極的に自己表現する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	積極的に英語を聞いたり、読んだりしコミュニケーションを図る態度が見られるか。	学習活動への参加の仕方や態度
表現の能力	情報や知識をまとめて口頭で発表したり、文章で表 現しているか。	小テスト、定期考査、レポート、 <u>プレゼンテーショ ン</u> 、 <u>毎時間の音読活動</u>
理解の能力	情報や話し手の内容を理解しているか。	小テスト、定期考査
知識・理解	基本的な文章から、比較的高度な内容のものまで理 解できる技能が身についたか。	小テスト、定期考査

3 担当者からのメッセージ

年間2回のレポート提出については、テーマを早めに決めて事前に各自で資料を集めて下さい。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語表現	2	3年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	様々な情報や自らの意見などを伝える能力をより一層伸ばしながら、その能力を活用し積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	『Impact ISSUES』(LONGMAN) 英字新聞等の自主教材

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	教材の中からpeopleとに関する話題を題材として取り上げ、生徒同士のディスカッションを経、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	4	中間調査まではVALUES of people及びValues of relationshipsの中から生徒が取り上げたい内容を題材として選び、授業中のディスカッションを経、自らの意見を500語程度のessayにまとめる。また、中間調査以降期末調査までは、同じくValues in the workplaceの中から題材を選び同様の活動を続ける。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	VALUES of people, VALUES of relationships, VALUES in the workplace
		5			
		6			
		7			
	【課題・提出物等】 毎週essayを提出する。				
	【第1学期の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	教材の中からfamilyに関する話題を題材として取り上げ、生徒同士のディスカッションを経、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	8	中間調査まではVALUES in the familyの中から生徒が取り上げたい内容を題材として選び、授業中のディスカッションを経、自らの意見を500語程度のessayにまとめる。また、中間調査以降期末調査までは、同じくValues in societyの中から題材を選び同様の活動を続ける。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	VALUES in the family, VALUES in society
		9			
		10			
		11			
	12				
	【課題・提出物等】 毎週essayを提出する。				
	【第2学期の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第 3 学 期	卒業論文	1	題材は学校生活から社会問題にいたるまで広範囲から各自で自由に選ばせ、最終的には2000語程度のEssayをterm paperとして完成させる。	peer feedbackやteacher feedbackを通じて、最終essayを完成する。	卒業考査は実施せず、卒業論文の提出をもって考査に代える。
		2			
		3			
[課題・提出物等] 最終essayである卒業論文を提出する。					
[第3学期の評価方法] 第1学期・第2学期の評価と、卒業論文を併せて評価し、学年全体の評価とする。					

【年間の学習状況の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。1年間の取り組みの集大成である卒業essayを主たる評価対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	essay提出の期限を遵守させ、お互いにお互いのessayや意見を批判しながらも尊重する姿勢を持つことの重要性を確認する。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	自らの意見を忌憚なく出し合う。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、間違ふことを恐れず、積極的に言語活動を行おうとする。	essayの提出・peer feedback等の期限を遵守し、また、授業中に自ら自発的に発言する様子を記録する。
表現	自らの意向や意見をできるだけ分かりやすく、適切に表現する	essayを相互に点検したり、AETやJTEによる推敲を通して、よりすぐれたessayにしようとする姿勢を評価する。
理解	様々な情報の中から必要と思われるものを選別し、それを正しく読み取ることができる。	お互いのessayやrecitationや発表を理解し、自らの考えと関連させて質問する。
知識・理解	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解できる。	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解し、コメントを加える。

3 担当者からのメッセージ

自分自身を表現しよう。

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	通訳演習	2単位	3年	普通科国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)通訳者養成トレーニングを通じて、英語の4技能をさらに伸長させる。 (2)口答英文解釈および口答英文英訳訓練を通じて、場面に応じた即興表現力を伸長させる。 (3)ボランティア通訳検定A級の資格が取得できるだけの基礎的通訳能力を習得させる。
使用教科書・副教材等	使用教科書:柴田バネッサ、『はじめてのウイパリング同時通訳』南雲堂 副教材:自作プリント(大谷立美、『英語通訳入門ボランティア通検対策』三修社ほか参考)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・パワーアップ リピーティング 単語クイック・レスポンス セグメント判断 数字クイック・レスポンス シャドーイング 頭ごなし訳のテクニック 頭ごなし訳のテクニック サイト・トランスレーション リテンション練習 	4	速聴訓練の一環として音読速度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 音読速度の測定にはCALL設置の「Speed Reader」を用いる。 単語および数字の即応練習にはCALL設置の「Quick Response」を用いる。 	期末考查
		5	<ul style="list-style-type: none"> くり返して聞き、くり返して音声化することによって瞬時に訳出できるまで語句や表現を定着させる。 即時反応訓練により正確で自然な訳出の基礎となる語彙増強を図る。 		
		6	<ul style="list-style-type: none"> 英語の語順でセンテンスを理解する練習により、英語による発想法を習熟させる。 長い文章を訳出する際必要となる短期記憶能力を高める。 		
		7			
【課題・提出物等】					
<ul style="list-style-type: none"> 各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 音読課題文を録音したメディアの提出。 					
【第1学期の評価方法】					
授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> 内容先取りの戦略 予測の戦略 リピーティング 同時サイトトランスレーション 文脈からの推測 通訳メモ練習 要約通訳 ウイパリング同時通訳 リライト センテンス逐次通訳 	9	副詞や相関語句を利用した予測ルールの再確認を行なうことによって、文章の流れを自然に予測する能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> サイトラにより即時的理解力を養成する。 メモはあくまでも短気記憶の補助であり、メモ取り作業に固執しないよう注意。 	期末考查
		10	<ul style="list-style-type: none"> 通訳用スラッシュリーディングの練習は同時通訳の基礎となる。 メモ取り練習によって、まとまった情報の主旨を、時間を掛けないで把握することが可能になる。 		
		11	<ul style="list-style-type: none"> 一つの文章を意識してニュアンスの違いを表現する技法を学習する。 		
		12	<ul style="list-style-type: none"> 短文通訳の練習は逐次通訳の基本となる。 		
【課題・提出物等】					
<ul style="list-style-type: none"> 各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 音読課題文を録音したメディアの提出。 					
【第2学期の評価方法】					
授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	・リプロダクション	1	・リスニング、リテンション、構文組立、表現力、デリバリーの総合練習を通じて、自分の言葉で表現する技能を高める。	・100 - 200語の パッセージを70%以上 訳出できることを目標 とする。	期末考查
	・短いパラグラフ逐次通訳	2	・記憶を整理しながら情報を保持する練習を行なう。	・100%出来なくても、 出来るところから上手く つないでスピーチを完成 させる。	
	・ワンセンテンス遅れの 通訳練習	3	・直聴直解したものを口答 訳出することによって即時 的表現力を総合的に高め る。		
	【課題・提出物等】 ・各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 ・音読課題文を録音したメディアの提出。				
	【第3学期の評価方法】 第3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	「自分の音読スピードと同じスピードで読まれた、または発表されたスピーチ内容は理解できる。」ことを基本コンセプトとして、日本語、英語を問わず文章をひたすら音読(音速読)することを奨励する。また日常生活における事象を英語で描写しようとするなど、間違えを恐れず絶えず英語表現力の活性化に努めてもらいたい。
授業を受けるに 当って守ってほしい事項	家庭学習においても付属の音声教材を活用して通訳トレーニングを実践するなど、復習や反復訓練を重視すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	間違ふことを恐れず自分の考えなどを表現している。 自分の知っている語句や表現で言い換えるなど工夫をしながら自分の考えを相手に伝えようと努力している。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考査(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・授業中の様々な表現活動において、積極的であったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなどを評価の対象とする。
表現の能力	意図や気持ちを的確に伝えるために場面や状況に応じて適切な抑揚、リズム、声の大きさ、スピードで伝えることができる。 場面や目的に応じて、情報や概要を整理して正確に伝えることができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考査(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・WSAテスト(Speakingセクション)の評価点。
理解の能力	長い日常会話と英文250語程度(語彙1300語レベル)を150w/mで聞き、70%以上理解できる。 まとまりのある文章を適切なスピードで読み、内容を理解することができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考査(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。
知識・理解	パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについて詳しい知識がある。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考査(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。

3 担当者からのメッセージ

『通訳演習』は、プロの通訳者養成トレーニングメソッドを積極的に導入した科目です。従来の英語学習とは違った視点で、実践的英語表現能力を磨いていきます。例えば「日本語と英語の特異性にも関わらず、なぜ同時通訳が可能なのか？」など皆さんが日頃抱いていた不思議が解明されるばかりでなく、皆さん自身が同時通訳者を体感する授業内容にもなっています。但し、より訓練効果を高めるためには、基礎的文法力の完成が不可欠です。早めに復習しておきましょう。

平成 18 年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 為 西 正 和

1. 授 業 名 『英語 』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5 限
4. 場 所 東棟5階 504号教室
5. 対 象 1 年 4 組 35 名 (普通科・普通)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 『PRO-VISION ENGLISH COURSE 』 Lesson 6 (KIRIHARA SHOTEN)
8. 背 景

(1) 教材観

パンダは1972年日中国交正常化を記念して中国から送られてきて以来、日本でも人気者になった。しかし、今パンダは世界の絶滅危惧種としてWWF(世界自然保護基金)のシンボルマークとなっている。パンダの意外と知られていない生態を知らせ、パンダをはじめとする絶滅の危機に瀕している動物たちのために何ができ、何をしなければならぬのか考えていきたい。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とした生徒が多く、基礎学力の定着は見られる。しかし、高校に入学してから学習内容の多さについていけず苦手意識を感じ始めている生徒もいる。様々な活動をやり遂げ自信をつけさせるよう取り組んでいる。

(3) 指導観

1学期より、音読ならびに速読を活動の中心として内容把握に努めてきた。音読では2分の1の生徒が、130wpmを超えるようになった。本授業では音読やリスニングを通して概要を把握すると共に、本文に関する質問を作りパートナーと質問しあうことにより内容理解を深めたい。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1	本課への導入・題材の背景知識・ KEY WORDS の説明
2～5[3]本時	音読・本文大意把握
6	SUMMING UP, CONVERSATION, LANGUAGE WORKSHOP, COMMUNICATION

10. 本時案

(1) ねらい

音読やリスニングを通して、また本文に関する質問とその答えを作ることによって概要を把握する。

パンダの生態について理解する

(2) 準備物

- ・ CDプレーヤー
- ・ ハンドアウト
- ・ ストップウォッチ

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の予定を知る ・音読2回目[Part 1] ・ディクテーション[Part 2] CDを使って本文を2回聞く ・もう一度本文を聞く 	<p>読んだ語数を記入する(150wpmを目標とする) 各自がテキストを見て採点する</p> <p>テキストを見ながら発音、アクセントを確認する</p>
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語、語句の意味を確認しリピートする ・音読1回目 ・CDを聞く ・スラッシュリーディング ・CDについて読む ・個人読み ・ハンドアウトの質問に答える ・各自で本文に関する質問を2つ作りその解答も作成する ・ペアで相手に質問をする ・作成した質問を発表する 	<p>CD1回、教師について2回 本文の内容に適した意味をつかんでいる</p> <p>読んだ語数を記入する(130wpmを目標とする) 発音・アクセント等を確認する ある程度意味をとりながらリピートさせる スピードになれる</p> <p>相手の答えを書き取る 相手の答えを正確に書き取ることができる 質問を基にこのパートの概略を説明する</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーラッピング ・次時の内容を知る 	<p>できるだけ速く正確に読む 次時はパート4をすることを知らせる</p>

平成 18 年度舟入高等学校SELHi 研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 川本 由美

1. 授 業 名 『英語II』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5 限
4. 場 所 北棟3階 LL教室 2
5. 対 象 2 年 3 組 40 名 (普通科・普通)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 『PRO-VISION ENGLISH COURSE II』 Lesson 6 (KIRIHARA SHOTEN)
8. 背 景

(1) 教材観

科学はどこまで自然をかえていいのか、人類の未来につながる大きなテーマの一つ「遺伝子組み換え食品」について考える。遺伝子組み換えはすでに定着し、人命を救う力をもっている。しかしさまざまな問題も危惧されている。遺伝子組み換えによる様々な利用を環境や倫理上の関心から注意深くみきわめ、各自で判断していく姿勢も学ばせたい。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とした生徒が多く、基礎学力の定着は見られる。英語力は多様であるが、各自意欲的に学習に取り組む姿勢は顕著である。しかし、模試の結果をみると読解が特に弱いというデータが出ている。長文問題への苦手意識を感じている生徒もいる。様々な活動を通じ読解における自信をつけさせるよう取り組んでいる。

(3) 指導観

1学期より、音読ならびに速読を活動の中心として内容把握に努めてきた。スラッシュリーディングではペアワークを通じて英語を前から読み進め、英語を読むことの抵抗感や難しさを和らげるようトレーニングしてきた。生徒が楽しい雰囲気と考えながら英語を学べるよう、LL機器を使用し、確実な内容把握をめざしている。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1	本課への導入・題材の背景知識・KEY WORDS の説明
2～5[3]本時	音読・本文大意把握
6	SUMMING UP, CONVERSATION, LANGUAGE WORKSHOP, COMMUNICATION

10. 本時案

(1) ねらい

音読やリスニングを通して本文の概要を把握する。
遺伝子組み換え食品について深い考察を加える

(2) 準備物

- ・ CDプレーヤー
- ・ ハンドアウト

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回行っている単語テスト ・新出単語の意味を確認しリピートする ・ディクテーション テープを使って本文を3回聞く ・もう一度本文を聞きながら音読 	<p>テキストを見ながら発音、アクセントを確認する</p> <p>各自がテキストを見て採点する</p>
展開	34分	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味を確認する ・音読2回目(シャドーイング) ・CDを聞き、本文の内容に関する質問に答える ・ペアでスラッシュリーディングのトレーニング ・細部にわたる内容理解(精読) 	<p>発音・アクセント等を確認する ある程度意味をとりながらリピートさせる スピードになれる</p> <p>本文の内容に適した意味をつかんでいる</p> <p>1人がスラッシュまで英語を読み、相手が日本語をでし、その交互で活動を行う できるだけ速くペアワークを行わせる 各自に遺伝子組み換え食品について考えさせる</p>
まとめ	1分	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容を知る 	<p>次時はパート4をすることを知らせる</p>

平成 18 年度舟入高等学校 SELHi 研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 横 山 幸 夫

1. 授業名 『英語 』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5限
4. 場 所 東棟4階406号教室
5. 対 象 2年4組 39名(普通科)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 『PRO-VISION ENGLISH COURSE 』 Lesson 6
8. 背 景

(1) 教材観

近代に入って議論されてきた大きなテーマの一つに科学と自然のかかわりの問題がある。科学はどこまで自然を変えていいのかという議論である。本課「遺伝子組み換え食品」の議論もまたこのテーマの延長にある。このテーマは人類の未来のつながっており、高校生すべてに考えてほしい問題である。

(2) 生徒観

生徒はほぼ何らかのかたちで予習をすすめている。授業中の教師の指示にもよく従い、学習に努力するという、クラスのムードがほぼできている。

(3) 指導観

1学期より音声を大切にすること、単語や文章が読めることを強調してきた。センテンスの構成に従い、適確で簡明な訳読を行い、内容理解を進めてきた。今後はパラグラフリーディングの要領により、トピックセンテンスの発見、メインセンテンスの指摘などの指導を行い、速読の方法を定着させたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1	本課の導入・題材の背景知識・KEY WORDS の説明
2～3(前時)4(本時)	音読・大意把握
6	SUMMING UP, CONVERSATION, GRAMMER

10. 本時案

(1) ねらい

- 速読をする(計時して読む)
- メインセンテンスが指摘できる
- シャドーイングの習慣を身につける

(2) 準備物

- ・速読練習プリント(3枚)
- ・ストップウォッチ
- ・CDプレーヤー

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導（ ）と評価（ ）の留意点
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容確認 ・本時の速読練習 	キーワードの指摘 トピックセンテンスの指摘 メインセンテンスの指摘 計時する キーワードに印をつける トピセン、メインセンテンスに下線を引く
展開	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・トピックセンテンスの確認 ・各文章の訳読 （文法の解説を含む） ・音読 	CD プレーヤー 範読 シャドーイング 自然な英語（リズム、イントネーション） ワンプレスで意味のまとまりごとに テキストを閉じて言える
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・SUMMING UP 	SUMMING UP 読みの速さの確認 内容理解の確認（他） 答の選択肢について、答の根拠となる文を 指摘させる

平成18年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 大 鴻 淳 二

1. 授 業 名 『異文化理解』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5 限
4. 場 所 北棟3階 CALL教室
5. 対 象 2年 8組 21名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 ビデオ教材やコンピュータソフトを活用した異文化理解および暗誦・表現活動
7. 教 材 ・『Pronunciation Power』Blackstone Multimedia Corporation
・ビデオ教材
8. 背 景

(1) 教材観

ビデオ教材やコンピュータソフトを使用し、音声や異文化についての学習を行っている。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とする生徒が多く、基礎学力の定着が見られ学習意欲は高い。異文化理解に深い関心を示し、音読活動やペア活動にも積極的に取り組む明るい雰囲気クラスである。

(3) 指導観

英語を通して、異文化について理解を深め、異なる文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図るための能力や態度の基礎を養うことをねらいとしている。

1学期から2学期半ばまでは、リスニングやスピーキングの基礎となるリズム、イントネーション、発音などに焦点を当てた基本練習を行なっている。2学期末から3学期にかけては応用練習として、異文化理解をテーマとしたスピーチ、ディスカッションを行い、より実践的なリスニングおよびスピーキングの練習および異文化に対する理解を深める授業を展開していく予定である。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1(本時)	発音練習および ビデオ教材を使用したリスニング、スピーキングの学習
2	発音練習および ビデオ教材を使用したリスニング、スピーキングの学習

10. 本時案

(1) ねらい

正しい発音を身につける。

音声を正しく聞き取る。

はっきりと大きな声で発表できるようにする。

(2) 準備物

・ビデオソフト

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	8分	・コンピュータソフト『Pronunciation Power』を使用した発音練習・聞き取り練習	『Pronunciation Power』を利用し、音声の確認、Sample Words、Comparative Words、Sentence Readingの訓練を行なう。取り組みの姿勢を観察評価する。
展開	40分	・ビデオ教材を使用したアクティビティ	ビデオ教材の一場面を使用して、ディクテーション、リピーティングを行う。 会話文の暗誦 各ペアに会話文を作らせる。 その後、音声を消したスクリーン上の画面に合わせて、各ペアが発表する。 (ボイスオーバー) 声の大きさ、文の適切さを評価
まとめ	2分	・次時の予告	次時は同じビデオ教材の別場面を用いてリスニング、スピーキングの練習を行うことを伝達。

平成18年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 佐藤 将記
 外国語指導助手 ナタリー・ヤンチャムナム
 マイケル・ジョセフ・マリオット

1. 授業名 『英語表現』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5 限
4. 場 所 東棟3階 302号
5. 対 象 2年 8組 20名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 スピーキング・プラクティスとグループ・ディスカッション
7. 教 材 『My Challenge - Just One Tape』
8. 背 景

▼ (1) 教材観

「読む」、「考える」、「表現する」のサイクルが本科における基本であり、環境問題、国際関係、あるいは友人のことや学校生活のことといった、生徒たちに身近な題材を扱うことで、生徒たちの書くこと、話すことへの積極性を高めたい。決して容易ではないが、フォーマットを与えたうえで、生徒自身の進行によるグループ・ディスカッションが成立することを目指す。グループでのディスカッション内容はレポーター役が集約し、全体に発表することでクラス全体のものとする。

▼ (2) 生徒観

「パブリック・スピーチ」など、あらかじめ用意してきた内容を発表する場面、あるいは「2分間モノログ」や「グループ・ディスカッション」といった即興で発言しなければならない場面など、英語を話さなければならない状況(forced situation)をできるだけ多く経験させることが、生徒たちの「話す」ことへの自信と積極性を高める。

▼ (3) 指導観

2年英語表現(2単位)では、(1)グループ・ディスカッション、(2)エッセイ・ライティング、(3)ショートターム・イベント(パブリック・スピーチ、インフォーマル・ディベート、リサーチ&プレゼンなど)を柱に授業を展開している。各活動における有効性を高めるうえで、語彙力や基礎文法・構文の知識、あるいはレシテーションなど流暢さを高めるトレーニングがいかに重要なものであるかについても、認識を高めさせたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1 (本時)	グループ・ディスカッション
2	エッセイ・ピアリビジョン

10. 本時案

▼ (1) ねらい

ディスカッションに積極的に参加しようとする態度を身につけさせる。

即興でのスピーキング力の向上を図る。

英語を話し、書く活動の背景となる文化的、社会的な事柄に対する関心と理解を深める。

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
Speaking Practice	10分	<p><u>Speech Practice</u> (10分)</p> <p><u>One-minute Speech</u> (10分) トピックの提示 マッピング(2分間) プレパレーション(1分間) スピーチ レポートイング</p>	<p>音読練習</p> <p>ペアワーク。与えられたトピックについて、モノローグの形式でパートナーに向かって1分間話し続ける。</p> <p>話し手は1分間話し続けることが要求される。聞き手は、自分のパートナーの話した内容についてナレートできること。</p>
展開	30分	<p><u>Group Discussion Part</u></p> <p>(1) Reading Comprehension Check Answer the quizzes given in Handout (5分)</p> <p>(2) Group Discussion (15分)</p>	<p>課題として与えられている英文 (My Challenge - Just One Tape)の内容把握に関するクイズ (英問英答)</p> <p>クラス全体でのブレインストーミング。ディスカッションの方向を全体で確認する。</p> <p>3つのグループに分かれてのディスカッション。事前に配布されているハンドアウトに基づいて進行していく。モデレーターが進行し、レポーターが発表用にまとめる。</p>
まとめ	10分	<u>Reporting</u> (10分)	各グループでのディスカッションの内容をグループごとにレポーターが、ハンドアウトの質問に答える形で全体に報告する。

平成18年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 栗栖 五代

1. 授 業 名 『リーディング』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 5 限
4. 場 所 東棟1階101号
5. 対 象 3年 理1組 35名 (普通科・普通コース・理系クラス)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 (1) 『Make Your Ascent to Better English Reading』(数研出版)
(2) 『Reading Gym英語速読テスト 発展』(数研出版)
(3) 『英単語ターゲット1900』(旺文社)

8. 背 景

(1) 教材観

本時に扱う主教材『Make Your Ascent to Better English Reading』(数研出版)は大学入試のための読解力を養成を目的とした長文精読問題集である。教科書『Polestar English Reading』(数研出版)以外に、2学期から大学入試対策のため、この問題集を使い、演習中心の授業に切り替えている。

(2) 生徒観

普通科・理系クラスは、国公立又は私立4年制大学、短大、専門学校など様々な進路希望の生徒で構成されている。英語力は多様であるが、最近では自分の進路実現を目指して各自意欲的に学習に取り組む姿勢が顕著になりつつある。

(3) 指導観

評論文読解のポイントについて概説し、それを実際の問題文に応用してみる。まずは主題を把握する。文章構成については生徒に提示して、あらかじめ全体像を把握させておく。次に筆者の主張を根拠を読み取っていくために詳細について理解を深めていく。最後に音読等により定着を図る流れで授業を進める。なるべく楽しく英語が学べる雰囲気作りを目指したい。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1(本時)	単語小テスト・速読テスト・長文の構成把握と部分把握・音読
2～3	単語小テスト・長文の部分把握・音読

10. 本時案

(1) ねらい

単語と速読の力をつける。

長く、複雑な英文の構造を理解できるようになる。

重要表現が定着し、音読ができる。

(2) 準備物

・予習プリント

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	1. 始めの挨拶、本時の予定確認。 2. 単語小テスト実施。(『英単語ターゲット1900』)・答え合わせ。 3. 速読テストの実施(『Reading Gym英語速読テスト 発展』)・答え合わせ・CDの聴取。	自己採点し、記録をつける。 自己採点し、記録をつける。
展開	30分	4. 『Make Your Ascent to Better English Reading』(数研出版) 9の国際理解 重要語句の補足と音読練習 5. 長文の文章構成と筆者の主張を提示(全体読み) 6. CDの視聴 7. 予習プリントに沿って、本文の前半を意味の固まりごとにフレーズリーディングを行ない、細部に関わる理解を深める(部分読み)	取り組みの姿勢を観察評価する。 3段構成の頭括型 抽象 具体の英文の流れを押さえる。 主張のマーカを押さえる。 should of course ~ however ...
まとめ	5分	8. スラッシュごとにコースリーディング(一斉読み) 9. 時間があれば、ペアになって重要語句の日 英の翻訳練習(最初は順番通り、次はランダム) 10. 全員を立たせて、ゲーム形式で日 英の翻訳(正解だったら座る) 11. 終わりの挨拶	取り組みの姿勢を観察評価する。

平成 18 年度舟入高等学校SELHi 研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 福 崎 穰 司

1. 授 業 名 『OC 』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 6 限
4. 場 所 CALL教室
5. 対 象 1 年 9 組 20 名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 即興スピーチ
7. 背 景

(1) 教材観

「OC 』では英語でコミュニケーション能力を積極的に図ろうとする態度の育成をねらいとしている。授業では、2分間モノログ、インフォメーションギャップゲーム、ブレインストーミング、エッセイライティング、スピーチというスピーキングに中心とした活動を行っている。

(2) 生徒観

日常生活の問題に関心をもち、英語のコミュニケーション活動に積極的に英語で発信できる生徒が多い。入学して学校生活に慣れ始めた頃であるが、スピーキングに関しては抵抗を感じなくなってきたようである。積極的に話そうとする態度に慣れ親しんできている。

(3) 指導観

英語で積極的に発信しようという意欲を高めるために2人とのペアー・トーキングからグループでのディスカッション、さらにスピーチへとという段階を踏まえながら生徒のスピーキングの能力を伸ばすとともに、幅広い話題について情報や考えを整理し、効果的に話すよう努める。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1～4	単語の発音指導、文章の音読指導
5～9	ブレインストーミング、エッセイの書き方、スピーチの書き方、発表練習
10～14(本時)	即興スピーチ

10. 本時案

(1) ねらい

音読指導により音、リズム、イントネーションなど英語の音声的な特徴に注意しながら、発音する。

英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図る。

(2) 準備物

- ・ プリント
- ・ ストップウォッチ

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・2分間モノログ ・与えられたテーマに関する文章を音読し、英語らしい音、リズム、イントネーションを習得させるよう指導する 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に発話しているか 相手の発話に関心をもっているか 英語を発話する雰囲気を育成する 音読指導により、音、リズム、イントネーションを習得させる
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマについてディスカッションに参加できるようアイデアをメモさせる ・その後、グループでディスカッションを行う ・テーマに関して、グループの代表者がまとめ、発表を行う 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループで様々なアイデアを出せるよう伝える できるだけ多くの生徒がディスカッションに参加させるよう配慮する 色々な意見をまとめられるよう指導する 多様な意見を聞き、お互いの違いについて考えさせる
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションのテーマに関してそれぞれの長所、短所をあげる ・総評を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が発表したことを取り上げ長所、短所が明確に伝えるようにする 生徒同士で自己評価させる

平成18年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教諭 佐々木 百合子

1. 授業名 『英語』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 6限
4. 場 所 北棟3階 LL2教室
5. 対 象 2年 8組 19名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 PRO-VISION ENGLISH COURSE Lesson 5(4) 桐原書店
8. 背 景

(1) 教材観

子どものみならず大人をも夢中にさせた映画『スーパーマン』を演じた俳優クリストファー・リーブの手記である。瀕死の事故にあり、一度は死を決意した筆者が懸命に立ち直って行く姿を通して、家族とは何か、友情とは何かということを考えさせたい。またタイトル“Still Me”の意味、幼い息子が最後に発した“Daddy”という言葉に込められた思いについても考えさせたい。

(2) 生徒観

国際コミュニケーションコース2年生の19名(ドイツからの留学生1名を含む)である。語学だけではなく国際的事象に興味、関心を持つ生徒が多く、授業は積極的な態度で臨む。1年時に発音の基礎を身に付けているので音読には抵抗が少なく、発話の様々な試みに喜んで参加する。

(3) 指導観

『音読・発話は聴くことから』と言う持論に基づき1学期からさまざまな形で『聴かせる』指導をしてきた。テキストの音読は教科書を閉じたままで『チャンク:意味のまとまり』毎のリピーティング、ペアでシャドーイング、最後に内容を理解しながらの『Reading Practice』プリントと流れ、文法的事項確認の目的も含めて毎時間『グラマーディクテーション』を行っている。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1～2	本課への導入・題材の背景知識・本課のkey words・本文(1)の内容理解
3～5(本時)	本文(2)～本文(4)の内容理解・音読演習
6	本課のまとめ・language workshop・essay writing

10. 本時案

(1) ねらい

予習テストを通してで本時の単語・内容を確認する。

本文中の構文・文法事項を理解し、使えるようにする。

リピーティング・シャドウイング・『Reading Practice』プリント等による音声トレーニングの徹底

(2) 準備物

・教科書・CDプレーヤー

・プリント類(予習プリント / 『Reading Practice』プリント)

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めのあいさつ ・ 前時の内容確認 (Summerizing in English) 	<p>前時の内容を理解しているかどうかを確認する。</p>
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ Part(4)の本文視聴 ・ 予習テスト & チェック ・ 文法、重要表現、内容の確認 ・ チャンク毎のリピーティング ・ 各自で音読 ・ ペアでシャドウイング 	<p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p> <p>教材提示器で答えをチェックする</p> <p>文法、重要表現、内容を正確に理解しているかどうか留意する。</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解(Thanksgiving Dayについて) ・ ペアで『Reading Practice』を使って練習する ・ 終わりのあいさつ <ul style="list-style-type: none"> - 『スーパーマン』のVTR視聴を勧める 	<p>異文化理解に努めるように指導する。</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p> <p>機会があれば視聴することを勧める。</p>

平成18年度舟入高等学校SELHi研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 住田 恒三

1. 授 業 名 『英語 』
2. 期 日 11月2日(木)
3. 時 間 6 限
4. 場 所 東棟3階 302教室
5. 対 象 2年 8組 23名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 英字新聞読解
7. 教 材 『MAINICHI Weekly No.1773(10/21/2006)』
8. 背 景

▼ (1) 教材観

前週まで扱っていた教科書から離れ、今週は英字新聞(10月21日付のMAINICHI Weeklyの第1面の英文)の読解を試みる。第2学年の生徒にとって読解しやすい文章ではないが、語彙プリントや読解用プリントを活用して概要を掴ませ、十分な音読を通して内容を把握させたい。

▼ (2) 生徒観

普通科国際コミュニケーションコース2年8組の生徒23名(授業はクラスを2分割展開)である。英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢にあふれ、英問英答の授業展開等には意欲的に取り組んでいる。音読に関しても既に目標値を越えており、音読活動を読解に結び付けさせたい。

▼ (3) 指導観

難解な文章であっても全文訳にこだわらず、パラグラフごとの要約をめざした英問英答等の活動を通して、内容把握を図りたい。また、今回のような平和問題を授業で扱うことにより、国際交流の場を多く経験する国際コミュニケーションコースの生徒のピース・メッセンジャーとしての認識も更に深めさせたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1	音読、語彙プリント・読解用プリントを活用した内容把握
2(本時)	音読、要約、エッセイ

10. 本時案

▼ (1) ねらい

- 難解な文章の内容を要約しながら把握する力をつける。
- 文章の内容に関連させて自らの意見をまとめる力をつける。
- 国際問題や平和問題に取り組む積極的な姿勢を伸ばす。

▼ (2) 準備物

- ・ 本文プリント
- ・ 語彙プリント 及び 読解用プリント

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット単語テスト(生徒相互採点) ・前時の内容確認 ・音読(3回) 	教師に合わせて、音読する。
展開	25分	<p>内容把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解用プリントのQUESTIONS for COMPREHENSIONを用いて、英問英答で内容を把握する。 	<p>文章の流れに合わせて生徒に質問し、それに答えることで内容把握につながることを確認する。</p> <p>自らの考えを自らの言葉で答えようとする姿勢を評価する。</p>
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・QUESTIONS for DISCUSSIONを用いて、英語で自らの意見をまとめる。 ・その中からテーマを一つ選び、英語エッセイを書く課題を与える。 ・挨拶 	<p>他の生徒の意見を聞き、それを参考にしながら自分の意見をまとめさせる。</p> <p>自らの考えを自らの言葉で答えようとする姿勢を評価する。</p>

平成 18 年度舟入高等学校SELHi 研究開発最終報告会 研究授業指導案

教 諭 西 巖 弘 (い)
 教 諭 堂 鼻 香 代 子 (あ)
 外国人指導助手 ナタリー・ヤンチャムナム (あ)

1. 授業名 『コミュニケーション』
2. 期 日 11月 2日(木)
3. 時 間 6 限
4. 場 所 (あ)北棟3階LL3教室 (い)東棟2階 201号教室
5. 対 象 3年 10組 (あ) 18名 (い) 17名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 トーキング・マッチ
7. 教 材 『Debating the Issues』 (MacMillan Language house)
8. 背 景

(1) 教材観

「トーキングマッチ」は、英語で議論する技能の向上をねらって、ディベートよりもインフォーマルな状況で意見を戦わせる訓練である。グループごとに討論者とジャッジを何度も交代で経験できるので、スピーキング、リスニング、論理的思考力を鍛えることができると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、今年度の初めから本授業で毎時間、1分間と2分間のモノログ練習を行ってきた。その結果現在、身近な話題と賛否両論のある話題という発話上の負荷が異なる2種類の話題のどちらにおいても平均で1分間に74語程度のスピーキングをしている。また、フォーマルディベートを経験した直後であり、生徒は意見を戦わせることについて十分に意欲的であると考えられる。

(3) 指導観

トーキングマッチで勝つためには、相手の意見を理解した上で、効果的な論拠を速く正しく発言しなくてはならない。この点の向上のために、ジャッジの経験を利用して各自の改善点に気づかせつつ、効果的なコミュニケーションの取り方について考えさせたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1～5	ジャッジの仕方とトーキングマッチ練習(グループ内で討論)
6～11	ディベートの実践(グループ対抗)
12～14(本時)	トーキングマッチの実践(グループ対抗)とまとめ

10. 本時案

(1) ねらい

より説得力のある意見を述べることができるようになる。

より素早く意見を述べるができるようになる。

より正確に評価(ジャッジ)ができるようになる。

(2) 準備物

・トーキングマッチ用カセット

・ワードカウンター

・ジャッジシート

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	・本時の予定 ・1分間モノログ ・2分間モノログ	モノログ中は机間巡視する。発話内容についてコメントを与え、形成的評価を行う。 流畅さを記録用紙に記入させる。
展開	30分	・トーキングマッチ ・ブレイクストーミング ・トーキングマッチ(Inter-group) ・トーキングマッチ(Intra-group)	トーキングマッチの方法と留意点について再度確認する。 トーキングマッチのグループ対抗戦を行う。これまでの学習成果が十分に生かせるよう配慮する。 活動中は机間巡視し、取り組みの姿勢を観察評価する。 発話内容についてコメントを与え、形成的評価を行う。 ジャッジシートを回収して評価する。
まとめ	5分	・5分間ライティング	トーキングマッチで議論したテーマについて書かせる。ただし、進行状況によっては宿題とする。 ライティングの内容を評価する。

【トーキングマッチ】 Practice Scheme

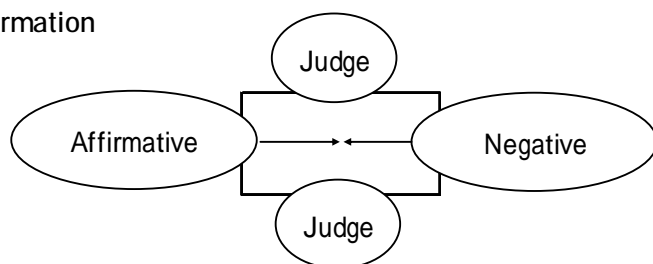
Sec.

0 30 60 90 120 150

Affirmative	Negative	Affirmative	Negative	Judgment
-------------	----------	-------------	----------	----------

Evaluation Logic Fluency

Formation



Teaching Plan for Demonstration Lesson in the English Forum 2007

School: Hiroshima Municipal
Funairi High School
Instructor: NISHI Itsuhiro

1. Date: **March 3, 2007, Saturday**
2. Place: **Tokyo Big Sight**
3. Class: **International Communication Course, 1st year, Class 9 (Male 5, Female 35)**
4. Subject: **English I**
5. Textbook: **PRO-VISION ENGLISH COURSE I. Kirihara Shoten.**
6. Unit: **Lesson 8, "Lessons from a Tomato Plant." Part 4.**
7. Background of the Subject & Unit:

(1) The Subject's Background

a) The Object

In this subject, we give main importance to the improvement of input-type English proficiency, enriching useful vocabularies and expressions, and encouraging students to be motivated and confident through the improvement of "FLUENCY" in speaking.

b) Placement of the Subject in the Study of SELHi

Our SELHi subject is "A Study on the Development of Step up Program for the Improvement of Output Skill in Effective Argumentation."

"English I" is situated in the "FORMATION" period, which is the first step in our "Step up Program". We aim to heighten our students' motivation and self confidence by improving their fluency in speaking first. This subject places importance on "READING (aloud)", based on the systematic relationship with "RECITING" and "SPEAKING (improvisation)". By these training activities, we intend to lead students to easier transfer from input to output in the process of English learning.

Our definition of output skill in argumentation is the skill in logical speaking and writing about familiar but controversial topics. The indicators of this skill are "FLUENCY (i.e., speed)," "APPROPRIATENESS (i.e., logic)," and "ACCURACY (i.e., grammar)."

The phases of instruction were divided into 3 steps below, and we proposed standards for each step when organizing syllabus. An image model of Step up Program is shown in FIGURE 1 on the next page.

- 1st year, FORMATION period
Basic instruction & training for FORMATION of output skill and extension of FLUENCY in speaking
- 2nd year, CREATION period
Instruction & training for making progress in APPROPRIATENESS & ACCURACY in writing and speaking by the repeating CREATIVE activities
- 3rd year, ACCELERATION period
Advanced instruction & training for acquisition of output skill in argumentation, through refinement of APPROPRIATENESS & ACCURACY in speaking, and ACCELERATION in argumentation

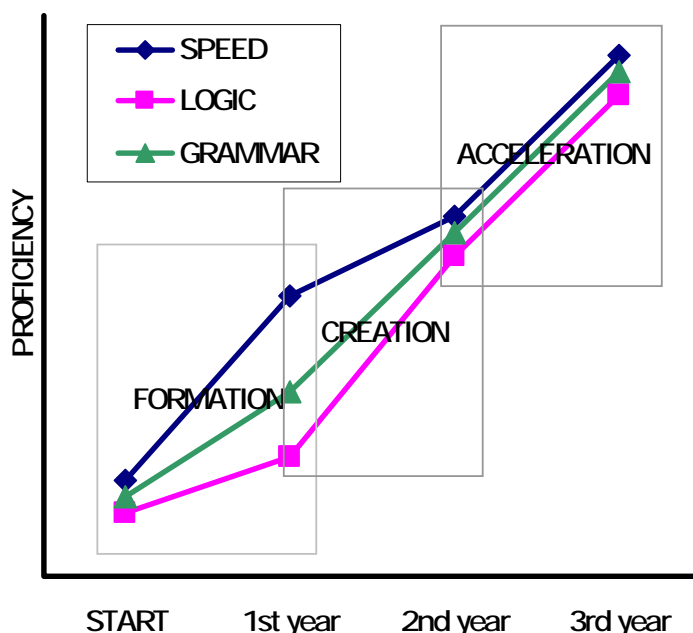


FIGURE 1. An Image of Improvement in Argumentation skill in Speaking and Writing on the basis of Step up Program.

We introduced “TRAINING” type of instruction and practiced in every subject and every class, from 1st to 3rd year. This instruction consists of 3 components: READING (aloud), RECITING and SPEAKING (improvisation). The purpose is to make it easier for students to transfer from the CONVENTIONAL type of instruction (e.g., grammar translation), to COMMUNICATIVE one (e.g., debate or discussion).

READING is assigned to reading type of subject, RECITING to writing type, and SPEAKING to communication type (see TABLE 1).

TABLE 1. Location of each training activity in Step up Program

Grade Phase of Instruction	Target Level of Speaking Fluency	Subjects	LOCATION of TRAININGS			Instructors
			READING	RECITING	SPEAKING	
1 st year FORMATION	60WPM	O.C.			○	Fukuzaki, J., Kondo, A. Marriot, M., Young Chan Nam, N
		English	○			Nishi, I., Kondo, A.
		Comprehensive English		○		Tamenishi, M., Fukuzaki, J.
2 nd year CREATION	70WPM	English	○			Sasaki, Y., Sumida, K.
		English Expression			○	Masaki, S., Manriki, K. Marriot, M., Young Chan Nam, N
		Cross-cultural Understanding		○		Kurisu, I., Ohko, J.
3 rd year ACCELERATION	75WPM	English Understanding	○			Masaki, S., Sumida, K.
		Comprehensive English		○		Masaki, S., Sasaki, Y.
		Communication			○	Nishi, I., Dohana, K. Marriot, M., Young Chan Nam, N
		Interpreter Training			○	Kondo, A.
		English Expression		○		Sumida, K., Young Chan Nam, N.
		Current English	○			Tamenishi, M.

(2) The Unit's Background

a) Material

The type of reading material is a logical essay. The outline is as follows: “Plants and animals in the natural world show great potential in incredible growth when given an appropriate environment. Humans, a part of the natural world, can also derive their potential from an appropriate environment. Humans are, however, superior to others in an ability to improve the environment at their own will and upgrade themselves.”

This essay has two features in its abstract content: the one is its “philosophical expansion based on scientific facts”, and the other is its “developmental view which stimulates the self-competence of young people.” In this unit, we intend to make the most of these two features and expand their proficiency in “comprehension” and “expression” and “peripheral knowledge”.

On “comprehension”, students will be guided to further understanding, through focusing on the interaction between environment and potential that life forms generally have, and familiarizing themselves with vocabularies and expressions that are commonly used in the fields of the natural science and the humanities.

On “expression” and “peripheral knowledge”, students will be guided to having their own point of view and expressing it in fluent English. This will be accomplished by the opportunity to think about the two relationships that follow; the first one is the

relationship between this material and the self-identity of the students, who are developing in their adolescence, and the other is the relationship between the development of themselves and the community or society to which they belong.

b) Students

The students entered our high school last April and, for about a year, in every class related to English, they have been practicing the trainings of READING, RECITING and SPEAKING according to our “Step up Program”, which intends to expand students’ output-type skill (i.e., speaking and writing), as well as the basic drill of input-type skill (i.e., listening and reading).

Consequently, their “FLUENCY – indicated by Words Per Minute” in the monologue of their own opinion about controversial topics increased from 47.8WPM in April, when they started school life, to 64.7WPM at the end of the second term: the number is the average of 41 students, and this was measured by “WSA test – Writing and Speaking test for Argumentation”, which we developed originally (see Figure 2 on the next page).

In contrast to the obvious increase in speaking speed, however, students have not yet made sufficient progress in APPROPRIATENESS of speaking contents. So, it is necessary to nurture their skill in logical thinking and sensitivity through every educational activity. Taking these into consideration, in this unit, we pay attention to the following points.

On “comprehension”, students have learned by reading materials made up of rather simple logic, such as “Views of life (e.g., the importance of courage or consideration)” or “Environmental issues (e.g., the crisis of pandas’ extinction or paper architecture)”, and they seem to have reached sufficient comprehension.

The material of this unit, however, has a feature of “philosophical expansion based on scientific facts” and this includes more complicated logic. In order to understand the author’s intention as deeply as possible, students will experience a larger cognitive load than before, and they will develop their own skill in logical thinking and sensitivity

On “expression” and “peripheral knowledge”, students will improve their skill for “thinking deeply and speaking fluently” by way of the activity, in which students will think about the relationship between “themselves” and “the community they belong to” or “society” in general on the basis of comprehension of the complicated matter, and they will generate their own opinion which they can speak about in fluent English.

The students are only in their 1st year of high school life, and their prospect of future education or occupation might not be clear yet. Meanwhile, from the 21st of this month, they are going for a 10-days-stay in Canada for language training. For most students, this will be the first time to experience a foreign country, where they cannot help facing with the problem of how to construct a good relationship with those who have a different cultural background.

Originally, the students had a very “positive attitude” toward drilling to expand their skill in practical communication. So, we hope this will be a good chance to heighten their motivation and self-confidence as a result of improvement in fluency through effective training.

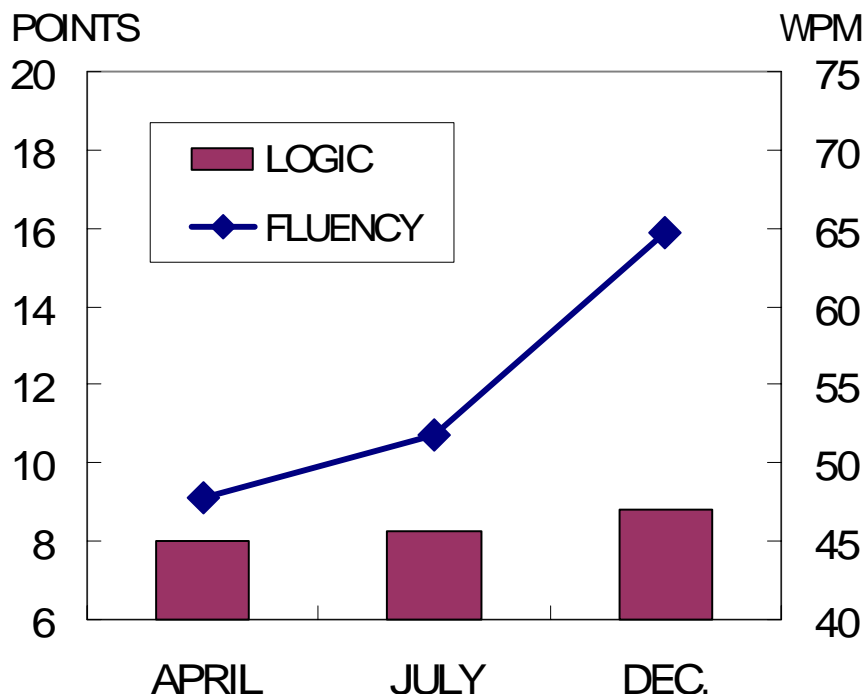


FIGURE 2. “FLUENCY (WPM)” and “APPROPRIATENESS (POINTS)” – the average of 41 students in 1st year.

c) Instruction

Students are expected to acquire effective output-skill on the basis of precise comprehension.

In order to attain this goal, questions students will be asked to answer should be essential ones through which their level of comprehension will be checked, and all the students should speak English more than 5 minutes in one period of a lesson.

On “comprehension”, the students will be guided to organize the components of the “scientific facts”; “general situations” on the growth of usual plants (i.e., tomatoes or melon), the “potential” which can be activated by some special environment, the “environment” which activates one’s inherent power, and the “limit” of it. Sufficient comprehension will be attained by asking them to explain about those components of the scientific facts.

On “peripheral knowledge”, as a “philosophical expansion”, the students will observe the difference between the growth of plants and humans. Then, they will be guided to think about the potential progress with which they themselves, the community they belong to, or society as a whole have to overcome various challenges. By these activities, students are expected to expand the ability to generate their own ideas

on the basis of comprehension or peripheral knowledge.

On “expression”, in the practical communication activities, the device to secure the time for students to speak as much English as possible, such as making the most of monologue or pair work, will allow them to speak about their own ideas based on the new knowledge which they will have obtained through the lesson. As a result of these activities, students will make progress in FLUENCY of impromptu speaking.

(3) The Aims of this Unit

Attitude	To be able to take part in the activities and exchange ideas.
Expression	To be able to speak about their own ideas as fluently as 70 words per minute.
Comprehension	To be able to grasp and explain about the contents of the article.
Knowledge	To be able to generate their own ideas on the basis of the existing knowledge.

(4) Teaching Procedure of this Unit

Period	Learning Contents & Activities
1	Introduction, background knowledge on the topic, and READING & RECITING training of key words.
2 ~ 7	From part 1 to 3: Vocabulary checking, translation & comprehension, READING, RECITING of the important sentences, and monologue about the relevant topic.
8	Part 4: Vocabulary checking, translation & comprehension, READING .
9	Part 4: RECITING of the important sentences, and monologue about the relevant topic.
10 (Today)	Part 4 & this unit in general: expansion of monologue improvisation about relevant topic.
11	Consolidation of this unit, Summing up, & Communication Workshop .

8. About Today's Lesson

(1) The Aims of Today's lesson

- a) For students to be able to organize their own idea quickly and speak fluently about it.
- b) For students to be able to carry out recitation, explanation and self-expression on the basis of precise comprehension.

(2) Equipments

- a) Stopwatch
- b) Words counter

(3) Learning Process of Today

Activities	Students' Roles	Teacher's Roles	Standards of Evaluation (Evaluation Methods)
Greetings	<ul style="list-style-type: none"> Exchanging greetings 	<ul style="list-style-type: none"> Exchanging greetings 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Attitude 】 Being able to exchange greetings (Teacher's observation)
Warm-up 2 minutes	<ul style="list-style-type: none"> "Let's become a clock!" "Count up & down!" 	<ul style="list-style-type: none"> Give numbers at random Tell students to sit down after they finish all. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】 Being able to respond to the numbers. (Teacher's observation / Self-evaluation)
One-minute Monologue (Pair Work) 5 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Impromptu speaking for 1 minute about a familiar topic as fluently as possible. 	<ul style="list-style-type: none"> Guide students to pay attention to fluency. Direct students' attention to posture, distance and eye-contact between speakers and listeners. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】 The number of words students speak in 1 minute. (Peer's evaluation with "Words Counter")
Oral Introduction 5 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Check existent knowledge about "the inherent power of tomato plant". Answer the questions. 	<ul style="list-style-type: none"> Give some explanations & questions about pages students studied in previous lessons. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Attitude 】【 Comprehension 】 Being ready to listen to the explanations & answer to the questions. (Teacher's observation / Work Sheet)
Recitation of the text 5 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Recite part 4 of the text. 	<ul style="list-style-type: none"> Guide to pay attention to pronunciation, speed, intonation and prosody when reciting. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】 The degree of achievement of recitation. (Teacher's observation / Self-evaluation)
Comprehension Check 5 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Think about "the difference between tomatoes and humans" based on Part4. Tell the idea to the others. 	<ul style="list-style-type: none"> Help students to confirm the "common" points at the beginning. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Comprehension 】 Being able to show correct understandings according to the text. (Teacher's observation / Work Sheet)
Talking Match 12 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Argue about "the difference" one on one. Judge the matches. 	<ul style="list-style-type: none"> Help students to reach sufficient comprehension about humans' potential of self-realization. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】【 Comprehension 】 The number of words students speak in 1 minute. (Peer's evaluation with "Words Counter")
Group Presentation 10 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Give a presentation about "What can we do, in order to make the world a better place to live in?" – The question relevant to the last sentence of Part4. Write comments to presenters. Ask presenters questions about their presentation. 	<ul style="list-style-type: none"> Help students to reach sufficient comprehension, through the presentation, about the linkage between the growth of "themselves" and the community they belong to. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】 Being able to give presentation that attract listeners. (Questions & comments by the listeners) 【 Attitude 】【 Comprehension 】 Being able to understand the presenters' message. (Comments by the listeners)
Recitation of the text 1 minute	<ul style="list-style-type: none"> Recite part 4 of the text. 	<ul style="list-style-type: none"> Encourage students to recite with feeling. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】 The degree of achievement of recitation. (Self-evaluation)
One-minute Monologue (Pair Work) 5 minutes	<ul style="list-style-type: none"> Impromptu speaking for 1 minute about "How I feel now" as fluently as possible. 	<ul style="list-style-type: none"> Encourage students to express their feeling not only by the voice but also by the movement of entire body. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Expression 】【 Knowledge 】 The number of words students speak in 1 minute. (Peer's evaluation with "Words Counter")
Consolidation & Greetings	<ul style="list-style-type: none"> Listen to the consolidation by the teacher. Exchanging greetings. 	<ul style="list-style-type: none"> Give some comments to conclude the lesson. Exchange greetings. 	<ul style="list-style-type: none"> 【 Attitude 】 Being able to listen to the teacher and exchange greetings. (Teacher's observation)

『英語が使える日本人』の育成のためのフォーラム2007」模擬授業 教科指導案

広島市立舟入高等学校

指導者 西 巖弘

- 1 日時 平成19年3月3日(土)
- 2 場所 東京ビッグサイト
- 3 クラス 普通科・国際コミュニケーションコース 1年9組(男子5名 女子35名)
- 4 科目 「英語」
- 5 教科書 PRO-VISION ENGLISH COURSE (桐原書店)
- 6 単元 Lesson 8, "Lessons from a Tomato Plant." Part 4.
- 7 科目と単元の背景

(1) 科目の背景

科目のねらい

本科目は、インプット型のスキルに重点をおき、使用可能な語彙・表現を充実させるとともに、スピーキングの「流暢さ」を高め、生徒にやる気と自信を持たせることを主眼とする。

科目のSELHi 研究開発における位置づけ

本校のSELHi 研究開発の主題は「英語で議論できる効果的な発信能力を育成するためのステップアップ・プログラムの研究開発」である。

「英語」は、「ステップアップ・プログラム」における第一段階、「形成(FORMATION)」に位置づけられる。ここではスピーキングの流暢さを高めることで、生徒に自信とやる気を持たせることを目的としている。とくにこの科目では「音読」のトレーニングに重点をおき、これに「暗誦」「即興(発話)」の技法を有機的に関連づけて、インプットからアウトプットへのスムーズな移行を行うよう留意している。

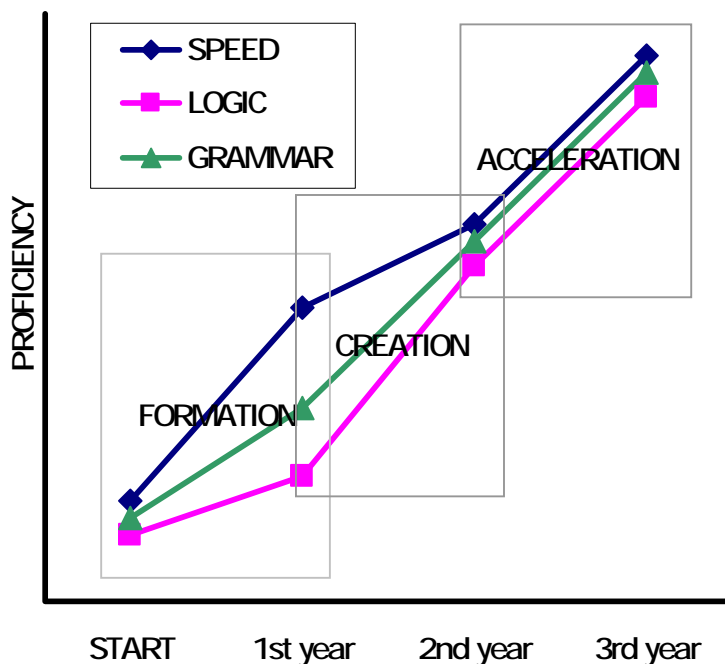
生徒の発信能力の定義は「身近だが賛否両論のあるトピック」について自分の考えを論理的に「話す力」と「書く力」である。能力の指標は「流暢さ(WPM)」「適切さ(ロジック)」「正確さ(文法)」の3つである。

指導時期は、以下の3段階に区分し、各段階での規準値を表示してシラバスを構成している。また、ステップアップ・プログラムのイメージモデルを次頁の【図1】に示す。

- ・ 1学年次「形成(FORMATION)」
発信能力の形成に向けた基礎固めと「流暢さ」の伸長
- ・ 2学年次「創造(CREATION)」
創造的なライティングとスピーキングの反復による「適切さ」「正確さ」の向上
- ・ 3学年次「加速(ACCELERATION)」
「適切さ」「正確さ」の洗練と「流暢さ」の加速で「議論できる発信能力」を獲得

また「トレーニング型」と称して、「音読」「暗誦」「即興（発話）」を3年間すべての授業で毎時間行うという長期反復の練習活動を取り入れている。これは、文法・訳読などの「従来型」の学習活動から、ディベート・ディスカッションなどの「イベント型」のコミュニケーション活動へとスムーズに移行することをねらうものである。

「音読」はリーディング系科目、「暗誦」はライティング系科目、「即興」はコミュニケーション系科目にそれぞれ配置している（【表1】を参照）。



【図1】ステップアップ・プログラムに基づく議論できるスピーキングとライティング能力の育成のイメージモデル

【表1】ステップアップ・プログラムにおけるトレーニング活動の配置

学年・段階	SPEAKING の「流暢さ」の目標値	科目名	トレーニング活動の配置			担当
			音読	暗誦	即興	
1学年次 FORMATION	60WPM	オール				福崎穠司 近藤あゆみ Marriot, M.J., Nathalie, Y.
		英語				西 巖弘 近藤あゆみ
		総合英語				為西正和 福崎穠司
2学年次 CREATION	70WPM	英語				佐々木百合子 住田恒三
		英語表現				佐藤将記 万力久美 Marriot, M.J., Nathalie, Y.
		異文化理解				栗栖五代 大鴻淳二
3学年次 ACCELERATION	75WPM	英語理解				佐藤将記 住田恒三
		総合英語				佐藤将記 佐々木百合子
		コミュニケーション				西 巖弘 堂鼻香代子 Marriot, M.J., Nathalie, Y.
		通訳演習				近藤あゆみ
		英語表現				住田恒三 Nathalie, Y.
		時事英語				為西正和

(2) 単元の背景

教材観

「自然界の動植物は、適切な『環境』が与えられるなら、驚くべき成長の『潜在能力』を発揮する。自然の一部である人間も同様に、適切な環境によって、潜在能力を引き出すことができるが、さらに人間は自らの意志で環境を改善し、自分自身の能力を向上させることができるという点で優れている」という内容の論説文である。

本課では、この英文の「科学的事実に基づく哲学的な展開」と「若者の自己有能感を十分に肯定する発達観」という特性を生かし、以下の手続きで「理解の能力」と「表現の能力」、及び「知識・理解」の伸長を図りたい。

「理解の能力」に関しては、生命が一般に持つ「可能性」と「環境」との相互作用に注目させ、自然科学と人文科学に共通する重要な語彙・表現への習熟を通して、深く理解させたい。

「表現の能力」、及び「知識・理解」に関しては、青年期の発達途上にある生徒一人一人の自我同一性(self-identity)の形成と本題材との関連、及び「自己」の成長と自分の所属する「社会」、あるいは「世界」との関連について考えさせ、各自の問題意識を述べる機会を与えることにより、自分の考えを持ち、英語で流暢に発信する能力の育成と伸長を図りたい。

生徒観

生徒は本年度 4 月に入学以来、約一年の間、「聞く」・「読む」の受信型技能の基礎的な修練に加えて、「話す」・「書く」の発信型技能の伸長を目的とした「ステップアップ・プログラム」に準じて、「音読」・「暗誦」・「即興（発話）」のトレーニングを、英語関連の授業でほぼ毎時間行ってきた。

その結果、賛否両論のある話題に対して自分の意見を独白する際の「流暢さ（一分間の発語数）」は、入学時（4月）で 47.8WPM であったものが、二学期（10月）で 64.7WPM まで向上している（41名の平均値、本校独自開発の「WSA テスト」で測定、次頁の【図 2】参照）。

しかし、「流暢さ」が明らかに向上しているのに対して、発話内容の「適切さ（ロジック）」の向上は十分ではない。この点については、今後あらゆる教育活動を通じて、思考力と感受性を十分に育成することが求められる。従って、本課では以下の点に留意したい。

「理解の能力」に関して、これまで本科目では、「人生論（勇気、思いやりの心の大切さ）」や、「環境問題（パンダの危機、紙の建築）」など比較的シンプルなロジックの題材を扱い、生徒は十分に理解してきたようである。

一方、「科学的事実に基づく哲学的展開」という特徴を持つ本課は、これまでに比べて複雑なロジックを含む。筆者の意図を深く理解するために生徒はより大きな認知的「負荷」を経験し、思考力と感受性をさらに成長させることが期待される。

「表現の能力」、及び「知識・理解」に関しても、複雑な内容の「理解」に基づいて、「自己」の成長と自分の所属する「社会」あるいは「世界」との関連について考え、自身の考えを表現する段階まで高める活動を通して、「よく考えて、流暢に話す」能力が向上すると期待される。

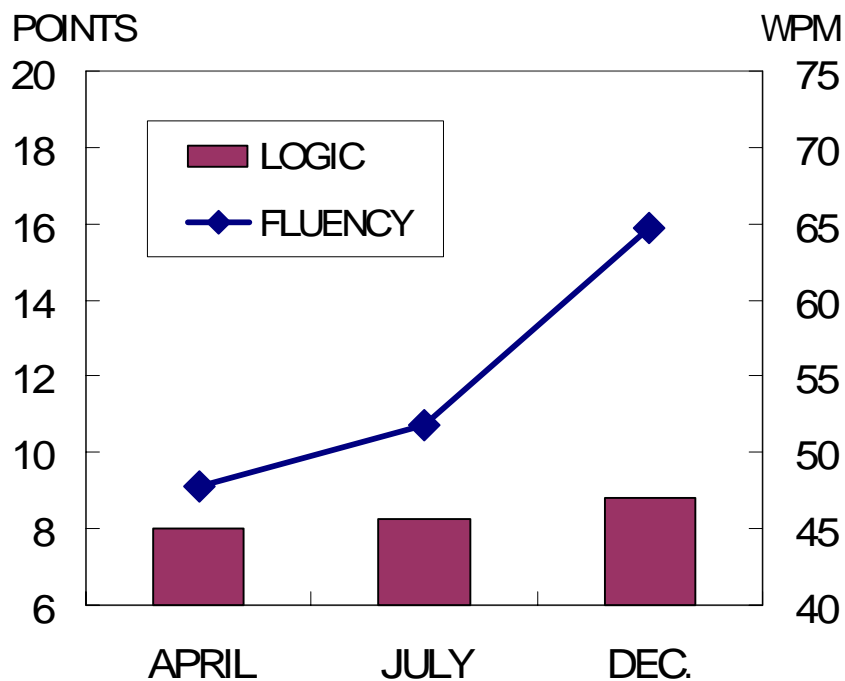
まだ一年生ということから、進路選択についての意識もそれほど高くない。一方、来る三月下旬にはカナダでの海外研修が予定されており、ほとんどの生徒が初めての海外を経験することとなる。そこで、生徒は「自己」と「世界」との関わりについて少なからず考える必要に迫られている。

元来、英語の実践的コミュニケーション能力の伸長に対して極めて積極的な「関心・意欲・態度」を持っている生徒達である。この機会に「流暢さ」を高める訓練を通してさらに自信とやる気を持たせたい。

指導観

教材英文の確かな理解に基づいて、効果的に発信する能力を身につけさせたい。

そのために、内容理解の確かさを問う本質的な発問をするという点、及び毎時間、全員に一人合計5分以上、英語で発話する機会を与えるという点について工夫したい。具体的な手続きは以下の通りである。



【図2】「流暢さ」と「適切さ」の変化（WSAテストによる1年生41名の平均値）

「理解の能力」は、本文中の「科学的事実」に関して、普通の植物（トマト、メロンなど）の成長についての一般的状況（general situations）、特殊な環境（special environment）で育った場合に発現する潜在能力（potential）、そして潜在能力を発現するために必要な環境やその限界（limit）について整理させ、それぞれの事柄に関する説明を求めるなどの活動を通じて、十分な理解へと繋げたい。

「知識・理解」は、「哲学的な展開」として、植物の成長と人間の成長との違いに気付かせたい。その上で、自分自身や自分を取り巻く世界、あるいは人類が限界を乗り越えて進歩する可能性について考えさせるなど、内容理解や周辺知識を基礎として自分の考えにまで発展

させる力を育成したい。

「表現の能力」は、モノログ、ペアワークなど一人あたりの発話時間が確保されるように実践的コミュニケーション活動を工夫し、自分の考えを、新たに獲得した「知識・理解」に基づいて発話する機会を与えることで、即興的なスピーキングの「流暢さ」の向上を図りたい。

(3) 単元の目標・評価規準

関心・意欲・態度	・活動に参加し、自分の考えを述べ、他者の考えを聞くことができる。
表現の能力	・自分の考えを流暢に話すことができる（1分間で70語以上の速さで話す）。
理解の能力	・英文の内容を的確に理解して、説明することができる。
知識・理解	・理解や知識をもとに自分の考えを持つことができる

(4) 単元の指導計画

時	学習内容・学習活動
1	本課への導入、主題の背景知識、Key Words の音読と暗誦
2～7	Part 1～3 の語彙・内容理解、音読、重点箇所の暗誦、関連テーマの即興モノログ
8	Part 4 の語彙・内容理解、音読
9	Part 4 の重点箇所の暗誦、関連テーマの即興モノログ
10（本時）	Part 4 及び本課全体に関連するテーマの即興発話の発展
11	本課のまとめ、Summing up、Communication Workshop

8 本時の授業について

(1) 本時の目標

自分の考えを素早くまとめて止まらず流暢に話すこと（スピーキング）ができる
確かな理解に基づいて、暗誦、内容説明、及び自己表現をすることができる

(2) 準備物

ストップウォッチ ワード・カウンタ

本時の使用教材

Lesson 8

Lessons from a Tomato Plant

4

Mr. Nozawa showed us through his giant tomato plant that we ourselves have some inherent power. We should try to make full use of it. We can improve our environment by ourselves if we really want to. What we need to do is eat healthy food and think good thoughts. Then we may live better lives.

Furthermore, we humans have an advantage over plants and animals. We can improve ourselves. There is no secret in this, and it is easy to do. As the Dalai Lama says, all you have to do is try to think of everything in a positive way and make every effort to improve your ability. Never give up even if you find it too difficult. Things will get better.

Like the tomato plant, if we live in a better environment with a positive attitude, our special abilities will develop. If everyone's abilities develop, the world will become a better place to live in.

(Provision English Course 1, Kirihara Shoten, Part 4, pp.94-95.)

(3) 本時の学習過程

指導形態	活動内容・学習活動	教師の支援	評価基準・評価方法 ()は評価方法
挨拶	・挨拶をする	・挨拶をする	・【態度】挨拶ができる(教師の観察)
ウォームアップ (2分)	・「時計になろう」をする ・「カウントアップ・ダウン」をする	・英語で数字を無作為に挙げていく ・終わったら座るよう指示する	・【表現】教師の読み上げる数字にすぐに反応できる(教師の観察・自己評価)
1分モノログ(ペアワーク) (5分)	・「身近な話題」について、即興で1分間、できるだけ素早く止まらずに話す	・流暢に話すことに留意させる ・話し手、聞き手の姿勢、距離、視線について指示する	・【表現】1分間の発話語数(「ワード・カウンタ」を使用したピア評価)
オーラル・イントロダクション (5分)	・「トマトの潜在能力」について、既習事項を確認する ・質問に答える	・既習事項について、説明や質問をする	・【態度】【理解】説明を聞き、質問に答えようとする(教師の観察・ワークシート)
素材英文の暗誦 (3分)	・Part4の暗誦をする	・発音、速度、抑揚、内容に注意して行わせる	・【表現】暗誦の達成度(教師の観察・自己評価)
コンプリヘンション・チェック (5分)	・Part4から読み取れる「トマトと人間の違い」について考える ・自分の考えを発表する	・最初に両者の共通点を確認させておく	・【理解】本文から読み取れる内容を的確に表せる(教師の観察・ワークシート)
トーキング・マッチ (12分)	・「トマトと人間の違い」について議論する ・ジャッジをする	・議論を通じて人間の持つ「自己実現」の可能性への理解が深まるよう支援する	・【表現】【理解】1分間の発話語数(「ワード・カウンタ」を使用したピア評価)
グループ・プレゼンテーション (10分)	・What can we do, in order to make the world a better place to live in? (Part4の最後の一文に関連)について、自分たちの考えを発表する ・グループへのコメントを書く ・発表者に質問やコメントをする	・プレゼンテーションを通じて「自己」の成長と「社会」あるいは「世界」との関わりについての理解が深まるよう支援する	・【表現】聞き手の関心を呼ぶ発表ができる(生徒からの質問・コメント) ・【態度】【理解】発表を聞き、グループの主張を理解できる(生徒の書くコメント)
素材英文の暗誦 (1分)	・Part4を暗誦する	・気持ちを込めて暗誦させる	・【表現】暗誦の達成度(自己評価)
1分モノログ(ペアワーク) (5分)	・「今の気持ち」について、即興で1分間、できるだけ素早く止まらずに話す	・「今の気持ち」を声だけでなく、からだ全体で表現するよう促す	・【表現】【知識・理解】1分間の発話語数(「ワード・カウンタ」を使用したピア評価)
まとめと挨拶	・本時のまとめを聞く ・挨拶をする	・本時のまとめを話す ・挨拶をする	・【態度】説明を聞き、挨拶ができる(教師の観察)

平成18年度 広島市立舟入高等学校 スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究開発関係者

運営指導組織

氏名	所属	職	指導領域・分野
清水 正剛	広島市教育委員会指導第二課	指導第二課長	研究全体に対する指導監督
青木 信之	広島市立大学国際学部	副学長・教授	研究全体とライティングの指導助言
渡辺 智恵	広島市立大学国際学部	助教授	スピーキングに関する指導助言
能登原 祥之	比治山大学現代文化学部	助教授	シラバス化に関する指導助言
田川 修司	広島市立舟入高等学校	校長	高大の連携と校内の研究活動の運営管理

研究組織

氏名	所属	職	担当分担
穴戸 千代香	広島市教育委員会指導第二課	指導主事	研究活動全体に関する指導監督
田川 修司	広島市立舟入高等学校	校長	校内の研究活動の指導監督
小林 幸治	"	教頭	校内の研究活動の指導監督
幾田 擁明	"	"	校内の研究活動の指導監督
桂 時彦	"	事務長	会計監査
佐々木 百合子	"	教諭	『英語』・WSA テスト
横山 幸夫	"	"	『英語』
堂鼻 香代子	"	"	『コミュニケーション』・WSA テスト
福崎 穰司	"	"	『オーラル』・WSA テスト
住田 恒三	"	"	『英語表現』・実用英語技能検定
為西 正和	"	"	『時事英語』・会計主任・GTEC
栗栖 五代	"	"	『異文化理解』・WSA テスト
大鴻 淳二	"	"	『異文化理解』・WSA テスト
佐藤 将記	"	"	『英語表現』・WSA テスト
西 巖弘	"	"	『コミュニケーション』・研究主任・計画書 および報告書の執筆
川本 由美	"	"	『英語』・WSA テスト
近藤 あゆみ	"	"	『通訳演習』・WSA テスト
クレイグ・ネヴィット	"	外国人指導助手	『コミュニケーション』・WSA テスト
ナタリー・ヤンチャムナム	"	"	『英語表現』・WSA テスト
ジョセフ・マイケル	"	"	『コミュニケーション』・WSA テスト

SELHi研究開発推進委員会

氏名	職・担当	氏名	職・担当
田川 修司	校長	住田 恒三	国際部長
小林 幸治	教頭	為西 正和	図書情報部長
幾田 擁明	教頭	佐藤 将記	外国語（英語）科
桂 時彦	事務長	佐々木百合子	外国語（英語）科
藤原 清貴	教務主任・委員長	西 巖弘	外国語（英語）科・研究主任
中島 光博	教育研究部長・副委員長		
小林 俊文	進路指導主事		

ワード・カウンター 年 組 番 名前

1・2分用

たて型

WPM TOPIC

1	26	51	76	101	126	151	176	201
2	27	52	77	102	127	152	177	202
3	28	53	78	103	128	153	178	203
4	29	54	79	104	129	154	179	204
5	30	55	80	105	130	155	180	205
6	31	56	81	106	131	156	181	206
7	32	57	82	107	132	157	182	207
8	33	58	83	108	133	158	183	208
9	34	59	84	109	134	159	184	209
10	35	60	85	110	135	160	185	210
11	36	61	86	111	136	161	186	211
12	37	62	87	112	137	162	187	212
13	38	63	88	113	138	163	188	213
14	39	64	89	114	139	164	189	214
15	40	65	90	115	140	165	190	215
16	41	66	91	116	141	166	191	216
17	42	67	92	117	142	167	192	217
18	43	68	93	118	143	168	193	218
19	44	69	94	119	144	169	194	219
20	45	70	95	120	145	170	195	220
21	46	71	96	121	146	171	196	221
22	47	72	97	122	147	172	197	222
23	48	73	98	123	148	173	198	223
24	49	74	99	124	149	174	199	224
25	50	75	100	125	150	175	200	225

1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

目標: 1分100語

cNISHI Itsuhiro (2004)

